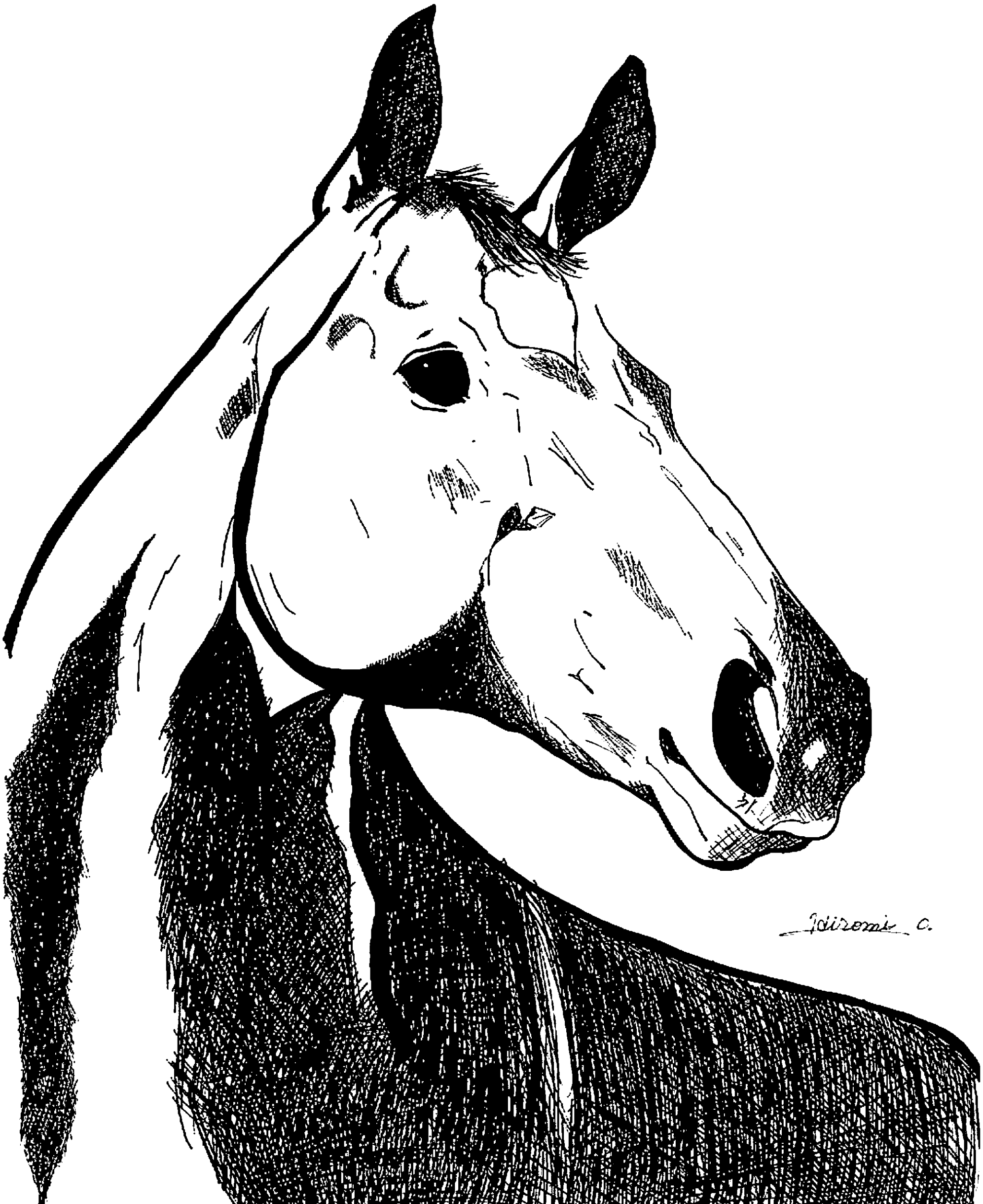
平成元年度

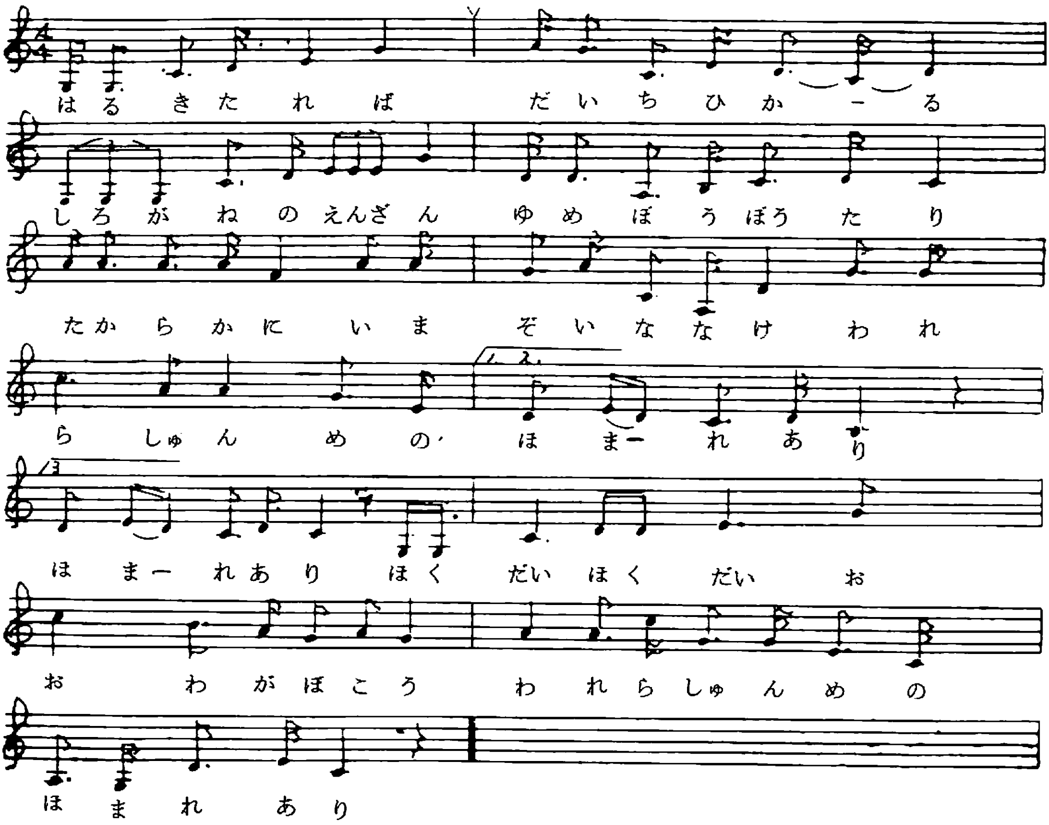
No.35 部報



北大馬術部

北大馬術部讃歌

作詩　三浦　清一郎
作曲　滝沢　南海雄



北大馬術部讃歌

一、春来たれば、大地光る
銀の遠山　夢茫々たり
高らかに　今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり

二、時来たれば　旗をかざせ
青雲の旅路に　意気軒昂たり
高らかに　今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり

三、雲流れて　旅路遙か
青春の孤杖　泥濘はばめど
凜然と　進みて行かむ
駿馬のほまれあるかぎり
北大！北大　おゝ我が母校
われら駿馬のほまれあり

目　次

巻頭言 …… 斉藤善一 …… 1
緊張 …… 岡田光夫 …… 2
前主将から …… 仲村秀喜 …… 3
現在のクラブ状況
　主将から …… 林　憲吾 …… 4
　主務から …… 堀崎敬史 …… 5
　馬匹から …… 真鍋いづみ …… 6
行事報告 …… 7
戦績報告 …… 8
調教報告と馬匹紹介
　北皇子 …… 林　憲吾 …… 17
　北銀 …… 仲村秀喜 …… 19
　北玲 …… 堀崎敬史 …… 24
　北凛 …… 27
　北駿 …… 堀川環樹 …… 28
　北瑛 …… 真鍋いづみ …… 30
　北楡 …… 中戸川周子 …… 33
　北羆 …… 36
　グレンエトワール …… 長屋清隆 …… 37
　パシオンM …… 41
　明日桧 …… 福庄亮逸 …… 42
離厩報告
　北峯・富勇 …… 石川信行 …… 45
　ノエル …… 前田武己 …… 46
北水活動報告 …… 根井　智 …… 50
東京OB会だより …… 名越正泰 …… 52
卒部にあたって …… 53
　仲村秀喜 …… 53
　前田武己 …… 55
　石川信行 …… 57
　西田美春 …… 58
　湯浅真美 …… 59
自己紹介他己紹介 …… 60
馬匹名簿 …… 74
OB名簿 …… 78
現役部員名簿 …… 95
編集後記

巻　頭　言

斎　藤　善　一

此の度の巻頭言は、書き上げてから部報担当者に渡すまであまりに長い時間が経過したので、その間に何回も書き直した。それだけ、いろいろと状況の変化があったといえよう。最初は、順調に1年が経過したことを謝し、さらに放馬事故を中心として、下馬交替、乗馬前の点検、引き馬時の手綱の的確な保持、引き継ぎについて注意をした。その後、水産学部馬術部の独立が問題になった。出来るだけ協力するからしっかりやりなさい、などと気楽に書いていたがそう簡単なものではなく、書き換えざるを得なくなった。正月を過ぎ、初乗りの感想から午年にちなんだ話を書いた。さらに、東欧における政情変化に感激して、昔を振り返り時代の流れを格調高く謳い上げてみた。しかし結局は巻頭を飾るにふさわしからぬ次元の低い次のような話になってしまって申し訳ない。

北大が当番校となった七大学馬術競技は、残念ながら2位であったけれど、競技設備、運営もほぼ満足すべきもので順調に終了したかにみえたが、閉会式の頃に盗難事故が発生してしまった。それで急遽書き直し、盗難に対する注意を喚起することにした。「災害は忘れた頃にやって来る」という有名な言葉があるが、盗難も同じである。私は、学内で何度も全品を盗まれ、泥棒をつかまえたことも一度ならずあったのに、人馬の事故にばかり気をとられ、盗難対策を全く指導していなかったのは油断であったと反省している。開け放たれた入り口を入ると目の前に盗難現場に続く階段があること、道路に近いこと、外部から部屋の中を見通せないこと、皆の注意が馬場に集中していること、などを考えると、コソ泥にとって天国といってよいであろう。したがって、よからぬ輩が常時学内を徘徊し、人の動きを観察しているから、沢山の人が特に注意が肝要である。泥棒にも2種類ある。ひとつは北大をナワ張りとし、その目的をもって入って来ている専門家で、給料日やボーナス日に活躍する。もうひとつは出来心で盗みを働くものである。後者の場合は、被害者の方にも油断という意味で責任の一端があると思う。馬場がポプラ並木の横にあった頃の話であるが、女子更衣室から乗馬同好会員の高級カメラが盗まれた。その時に分かったことであるが、それ迄も度々お金が盗まれていたが、まわりの人達に迷惑をかけると思ったのであろう。表沙汰になっていなかった。盗難が土曜日に集中しているので張込んだところ、皆が練習に行くと間もなく小学校高学年か中学生らしい2人連の1人が侵入して来た。捕らえて交番に連れて行ったところ、おまわりさんも馴れたもので、やさしく話かけながら調べてくれた。それによると、毎日、学校から変えると餡パンをひとつ持って大学に遊びに来ていた。農場を中心にブラついている間にそこらにある物をつい失敬するようになったという。大学側の無用心が、その子をコソ泥にしたような気がしてかわいそうであった。

盗難は、被害者ばかりでなく他の人達にもいやな思いを残す。一番よいのは盗まれて困る程の大金を持たぬことであるが、少なくとも、万サツはいつも身につけておく位の用心が必要である。盗まれた場合は、直ちに他の人達に伝え注意をうながすべきである。盗難など2度とないことを祈り度い。

緊　　　　張

岡　田　光　夫

最近、新聞のスポーツ欄に今年いろいろの分野で活躍した選手たちの試合に臨む前又は終ってから語った言葉のいくつかがのっていた。その中に五十三才で国内ツアー通算54勝目を挙げて大阪府知事から府民の誇りとしてたたえられ知事賞詞を贈られたゴルフの杉原選手の話しとして次の様な記事がのっていた。

「優勝のかかった最終ホールでは緊張して手が震えてどうしようもない時もあります。最近では若い人でも場慣れしている人もいますが、緊張する人の方が人間らしくていいと思う」

通算54勝目を得るまでどの位の数の試合を経験して来られたのか分からないが、そのようなベテランでさへ緊張で手が震えることがあると云わせる程試合と云うものは真剣勝負の場であると云える。そして最後の人間らしくていいと思うと云う言葉に何とも云えぬ味わいが感じられ、いつまでも記憶に残っているのでこの文に引用させて戴いた。渡しなりに考えると先輩として後からついてくる選手に決して偶然によい成績を取っても思い上ってはいけない。コンスタントに良い結果を得る様に初心にかえって努力しなさいと云う意味を言外に現わしていると解釈している。

戦前の試合は全日本学生選手権を除いては殆どが貸与馬の対抗戦であり、試合に臨んでの金朝刊は猛烈なプレッシャーとなったものだった。スタートの時間が近づくにつれて動悸ははげしくなり気持が集中できなくなった時にふと今迄の練習の事を思い浮かべ「やるだけはやった」と自分に云いきかせているうちに心も静まり、やがてスタート・無我の走行・そして飛越・ゴールを切り・下馬したとたん全身の力が抜けてしまった様な虚脱感が思い出される。緊張の度が大きかった時程、後々まで思い出として残っている。最近は場慣れしすぎたのか、試合が対抗戦より責任の重さの違う個人戦が多い為か分からないが何と今一つ物足りない選手が多くなった様な気がする。先ず入場からして緊張感が感じられない。第1馬に活気がない。敬礼は敬礼すべき人の目を直視して行うべきであるのにどこを向いて敬礼しているのだろうと考えさせる選手には緊張感など少しも感じられない。少しも試合に臨むからには今迄の練習の成果を示し審判にも観衆にも見てもらうのだと云う気迫を見せてほしいものだ。「人馬一体」とは人が平常心であり、馬も平常心である事から生れてくるものであると思う。

前　主　将　か　ら

仲　村　秀　喜

全日学の枠が減り、障害8頭、賞典3頭、総合6頭に、東北、北海道地区全大学が挑む、この枠の決め方は、障害を例にあげると、全国大会の枠100頭中、85頭が各地区の馬匹数により比例配分され、残りは前年の全日学での上位15位が所属する地区に配布される。15位に入らなければ、8頭となる。この厳しい枠の中でどうすればいいのか、私なりの考えを3つ上げてみたいと思う。

『楽天主義』自信と言い換えてもいいかもしれない。馬の知識は、ある説によると3才程度だという。人間の3才の子供が、なにか怖い場面に出会ったとする。そうしたら周りの大人は、それが怖くないことを子供に判らせ、自分（＝大人）は、大丈夫であることを示すであろう。そのことで、子供は安心する。この人は、頼りになると思うだろう。同様に、馬上でも、不安感を持たずに自信を持って『なんとかなる』の精神で、いかなければならない。もちろん、自信を持つためには研究や、技術の工場につとめなくてはならないし、失敗したならば、その分析はしなければならない。しかし、馬に跨がったからには、楽天的な気持ちで馬に接しなけらば、いくら練習でよくても、本番でうまくいかないと思う。

『気合』 我々の技術は、拙い。それをカバーしてくれるものは、気合しかない。それは、時に、はったりだったり、意地だけだったりするが、それでもいい、締めないこと、常に前向きであること。やる気があれば、周囲は、馬は、助けてくれる。また、馬術の知識を自分より持っている人は周囲に幾らでもいる。その中から、今の人馬のレベルにプラスになるものをどれだけ吸収できるか。自分にあった教え方をする人に巡り合えるか。その努力を、どれだけするかも大切だと思う。

『仲間はライバルであること』 気を抜けば、適はすぐに隣にいること。その緊張感を、持ち続けること。それを忘れた3年目は腐っていき、それを忘れた4年目は負けてしまうことが多い。

つまり技術論ではない。精神的強さである。わが馬術部も、時代を写す鏡か。飽食の時代、豊かさの時代。部員は増えた。馬のレベルは上がった。飼料代は安定、部の財政状況も安定している。破れたキュロット、工事用のヘルメットは影を潜めた。今の馬術部の生活が決して楽だとは思わないが、精神的な面では、日本が、オリンピックでメダルが取れなくなった、それと同じ理由ではないだろうか。

一方、前進気勢あふれる水産学部は、札幌の本部から独立し、自馬をもち、北日本の選手権にも別枠で参加できるようにと各方面で努力がなされている。ことの賛否はともあれ、新たな可能性に向かって希望に燃えている。この場を借りて、多くの方々のご支援、ご協力をお願いしたいと思う。

この1年間、トラブルが起こるとお呼び立てした斉藤部長を初め、岡田監督、半沢先生、竹之下氏、水野氏、大坂氏、村上氏等、多くの方々に大変お世話になった。また長屋さん、高野さん、加藤さんには、新馬の調教だけでなく、運営面でも、多くのアドバイスを頂いた。そして、ついてきてくれた後輩、出来の悪い私をフォローしてくれた同輩には感謝の言葉もない。本当にありがとうございました。最後に、この部報の、歴史的ともいえる遅れの責任は私にあります。皆様方本当に申し訳ありません。皆様本当に申し訳ありませんでした。

現在のクラブ状況

主将から

林　　憲　吾

昨年、不覚にも全日学団体出場を果たす事が出来なかったが、その前の二年間は連続して団体出場をしており、その時の馬匹も健在で、さらには後継の馬も順調に育ってきている現在、馬匹にはめぐまれていると言えよう。当然、目標は全日学出場、あるいはそれ以上である。それに向かって、九月の代交代以来、主に次にあげることを念頭において、クラブの運営にあたっている。

〈馬の調教に関して〉

現在、クラブには11頭の馬匹がいる。彼らは皆、調教レベルの向上と試合で勝つ事を目標に調教されているわけだが、クラブとして11頭の位置づけをすると以下の様になる。

北皇子（15）、北銀（11）、北玲（10）、北駿（8）、の4頭は全日学を最大の目標とし、他の試合でも勝ってゆくべき馬。北凛（9）、北瑛（11）、明日槍（13）は上級生騎乗の下で、あるいは下級生にまかせる形で下級生の指導にあたる。北楡（8）と北羆（7）は将来、戦力になる様にするとともに、下級生の指導にもあたれる様に。そして、グレンエトワール（5）とパシオンM（10）は、次期戦力馬として。

練習馬の存在について様々な意見があり、代ごとにその位置づけも異なっている。我々は、部員数の増加に伴って馬匹の数が増えた事で、馬それぞれの立場が少しずつ異なっていると考える。戦力となる馬、そうでない馬、そして新馬、と簡単に言えば三つに分れると思うが、そうなるのも馬匹数も増えれば当然だろう。そこで練習馬についてであるが、ようするに下級生の練習になる馬であり、下級生の指導に使い易い、あるいは下級生にまかせておける状況にある馬を指している。試合に左右されず、下級生を指導でき、又、効果の上がる様な使い方を考えていくつもりである。

新馬の調教に関しては、現在、パシオン・Mとグレンエトワールの2頭のOBの方にお願いしているが、それに対して「現役でもっとやるべき」という意見もある。その気持ちがないわけではないが、実際、OBの方に調教して頂いた方が順調に出来るだろうし、かたくなに「現役の手で」と無理する必要もないと思う。もっと柔軟に考え、現役で出来る状態までOBの方に任せる方が近道であろう。ただ、OBの方達に任せっきりになってはならないと思う。

〈下級生の指導に関して〉

関東の私立大が毎年好成績をおさめている全日学で、上位にどの様にしてくい込むか。彼らは、中学や高校の頃からすでに馬に乗っており、又、有能な指導者のもとで優秀な馬を使って練習している。それに対して我々は、馬に乗る事など初めてなのが殆どで、同じ様な経験もそれ程ない上級生から指導され、さらにその上級生は手さぐりで馬を調教しているといった具合である。スタートからして違い、環境も大きく異なる。この様な状態で私立大と同じ土俵で戦うには、当たり前の事をやっていた

のでは追いつかない。たった四年間で彼らと勝負しようというのだから、多少のことは無視して必要最小限の事に的をしぼって練習しなければならない。時間は限られている。しかしながら、今の北大ではこれといった指導法も存在せず、各個騎乗の中で各上級生が自分なりの指導をしているのが現実である。たとえ指導法に関しての話し合いをもったとしても、それはその年だけで終わってしまい、次に受け継がれていない。こういった事から脱するため、我々が考えられるのが北大方式の確立である。

まず、下級生の指導に関して、頻繁にミーティングを開き、下級生の現状を常に把握する。次に指導の方向性を統一してそれに対しての継続的な練習法を考察し、さらに普段の練習が惰性にならない様一定の期間ごとに内容を絞って重点的に指導していく。そして、これらの事を次代に伝えていく事が、実は一番大切なのだ。北大方式は一年や二年で確立できるものではなく、毎年の経験の積み重ねから生まれてくるものなのだ。

〈クラブの体制について〉

数年前からクラブの方針が許容範囲を広げる方向に変わり、そのおかげで部員数も以前の倍以上になっている。その結果、馬匹についても予算についても余裕ができ、大変良い事だと思う。しかし、問題がない訳ではない。その一つに部員も意識のレベルの低下があげられる。確かに、クラブに対する考え方は各個人それぞれだろうし、別にクラブ第一主義を求めている訳でもない。クラブが部員にとって、全てであっても良いし、あくまで課外活動であっても良い。ただ、クラブに対してどこまで考えているのか？最近では、個人のアルバイトは公然と認められ、自動車学校があるから、とか明日試験ですからと言っては部活を休む部員も稀ではない。アルバイトをしなければならないのもわかるし、試験が大切なのも当然だろう。そこを無理しろと言っているのではないが、意識の上ではもっとクラブの方に目を向けるべきである。自分の、クラブに対するはっきりとした考えを持つべきである。惰性で続けてほしくない。部員それぞれが理想を持ち、考え方を持った上での『許容範囲の広いクラブ』をめざす。

以上、主な3つを書いたが、他の細かい点はこれらの考え方に沿って、決めて行くつもりである。

最後に半澤先生、岡田監督、斎藤部長をはじめ、数多くのOBの方々、色々と至らない事があり、迷惑をかけておりますが、今後とも宜しくお願いします。

主務から

堀　崎　敬　史

現在、主務の仕事として次のことを行っています。

1. 学生部との連絡、交渉
2. 道馬連との連絡
3. 保険関係
4. その他

1について、現在はほぼ良好な関係を維持しています。今年は七帝戦ということで除雪車を入れてい

ただいたり、昨年度競馬場からいただいたプレハブについても条件つきながら認めていただきました。現在、夏の草刈り場として北24条の第3農場跡地を使用できないか、また、昨年度から建設してきている仮厩舎を認めていただけるよう交渉しています。我が部の厩舎、馬場は学生部の管轄ですから、処手続さえきちっと行えば、結構要求を受け入れてもらえることも分ったので、早め早めに連絡をとって活動し易い状態にもっていこうと考えています。

2については、必要に応じて八木さんなどと連絡をとるようにしています。今年は自馬大を北大主管で行おうと考えているので、よりいっそう緊密なものが要求されてくると思います。

3については、現在クラブ員が加入している保険について、何か事故があった時に事務処理を行っています。最近、部員の怪我が増加する傾向にあり、多少ながら保険の使用頻度も上がってきています。保険を使用することはいっこうに差しつかえないのですが、怪我や事故がないのにこしたことはなく、その辺について、活動中の部員の意識を高めていかなければならないと考えています。

その他、渉外など細かい仕事は多数ありますが、とにかくクラブが円滑に動くために働いています。

とにかく主務という役職は、その膨大な事務量にふり回されがちですが、他の役職でもできることはどんどん振っていった方が良いようです。現在では、こんなであったOBとの連絡については新たに後援会という役職をつくり、そこに3年目の伊藤をあてて主務との連絡をとり易くしましたし、学生部との交渉などは、副将の福庄に手伝ってもらったりしています。あまり仕事をかかえ込まないで、先手先手でうまく仕事をこなしていこうと考えています。

蛇足ではありますが、こういった大変な仕事をある程度マニュアル化していくことで、のちのちの主務の負担も軽減されることと思い、現在少しずつですがマニュアルを作成しています。

馬匹から

真　鍋　いづみ

北大馬術部の現在の馬匹は11頭。中には、肢の弱い馬や慢性的に腰痛の馬もおり、全馬馬体管理には十分な注意が必要であります。特に新馬グレンエトワールは停留睾丸のため去勢せずに春を向かえ、シーズンを向かえることになります。現在、牝馬も2頭いますし、牝馬を長期管理するために、部員全員が常に細心の注意を払って馬に接していかなくてはなりません。馬の怪我も人の怪我もすべて人間の不注意によるものです。馬は口がきけないのだから、全員が全馬に目を向け、彼らの気持ちをくみとってやり、各馬がより健康で、より生活しやすい環境を、部員全員で積極的に作って行くべきであると考えています。馬匹は、注射をする係、治療をする係ではありません。注射をうたなくてもすむように、治療をしなくてすむようにする係であるべきです。馬あっての馬術部です。全部員が馬体管理に関することはもちろん、その他何でも鈍欲に馬に関する知識を求め、協力しあってゆきたいと思います。

平成元年度　行事報告

○４月

３月31日～４月１日　第28回七大戦（於　名古屋大）

12日～16日　馬術講習会

５月４日　第17回半沢林記念馬術大会（於　北大）

○５月

８日～21日　新歓合宿

14日　三大戦（於　酪農大）

18日　若葉コンパ

21日　北日本学生馬術選手権大会（於　畜大）

27日　新歓コンパ

○６月

１日～４日　教養祭

３日～４日　国体馬術競技強化指定選考会（於　浦河）

24日～25日　国体リバーサル大会（於　浦河）

○７月

１日～２日（於　浦河）

16日　初心者馬術大会（於　北星RC）

22日～23日（於　ノーザンホースパーク）

○８月

4日～7日　第25回　北日本学生馬術大会（於　北里大）

10日～13日　道体（於　浦河）

14日～20日　日高合宿

20日　市民大会（北星）

○９月

６日 Noë１号、富勇号離厩式

10日　役員交代コンパ

17日～22日　第44回国体（於　浦河）

29～30日　第25回東日本馬術大会（於　馬事公苑）

○10月

２日　田村兄、橋本兄、松島兄離札コンパ

10日　山下杯、駅伝大会

15日　第24回北海道自馬馬術大会（於　畜大）

22日　岩見沢親善大会（於　岩見沢）

30日～11月6日　全日本学生馬術大会（於　馬事公苑）

○11月

19日 OB対抗戦

25日～26日 F. M. C

○12月

２日　馬術講習会

15日　忘年会

25日～30日　冬合宿（前半）

24日　もちつき

○１月

２日　初乗り

３日～８日　冬合宿（後半）

○２月

４日　雪祭り外乗

○３月

５日　追コン

27日　西田姉離札コンパ

平成元年度　戦績報告

★対東北大学定期戦（於　東北大　3月26日）
使用馬匹……尾白鷲、杜貴、杜舞姫、滝右衛門、久太郎
選手北大……高村、田村、外山、野田、横山
東 北 大……伊野、大川、塩谷、松本
戦　　績……優勝　　最優秀選手……横山

★七帝戦（於　名古屋大学　3月31～4月1日）
出場選手……仲村、前田、林
戦　　績……5位

★第17回太秦杯・半澤杯・河田杯・小池杯記念馬術大会（於　北大　5月4日）

〈複合馬術競技〉

				馬場減点	障害減点	総減点
1位	三味	艶飛	オーフルホースコミューン	－120.67	0	－120.67
2位	鈴木	ノースワンダー	ゼロRC	－132.67	0	－132.67
3位	大久保	騄閃光	酪農大	－135	0	－135
5位	仲村	北銀	北大(4)	－137	0	－137
	前田	ノエル	北大(4)	－141	－20	－161
	湯浅	北凛	北大(4)	－141	失権	

〈第三級馬術競技〉

				得点
1位	星野	メイキッスジョー	石狩RC	351
2位	久保	ヒルゼンフィールド	札幌競馬場	336
3位	宮浦	シルバーキング	旭川RC	318
	真鍋	北瑛	北大(3)	273
	堀崎	北玲	北大(3)	248
	林	北皇子	北大(3)	229
	福庄	明日檜	北大(3)	212

〈中障害飛越競技〉

				減点	Time
1位	大林	艶飛	静内農業高	0	70″9
2位	星野	ユーグレイ	石狩RC	－0.5	77″0
3位	仲村	北銀	北大(4)	－4	71″0
5位	林	北皇子	北大(3)	－17	1′06″8

〈小障害飛越競技〉

				減点	Time
1位	鈴木	ノースワンダー	酪農大	0	60″0
2位	飯野	ジンクエイト	フロンティアRC	0	57″2
3位	中脇	ハシストーム		0	56″8

4位	橋本	北　銀	北大(2)	0	56″4
	福庄	明日檜	北大(3)	0	65″6
	堀崎	北　玲	北大(3)	−4	67″4

〈新人新馬障害飛越競技〉

				減点	Time
1位	東垣	ラングレイ	石狩RC	0	59″5
2位	加藤	パシオンM	北大同好会	0	59″0
3位	鈴木	ラングレイ	石狩RC	0	58″2
5位	外山	北皇子	北大(2)	0	56″3
	田村	北　駿	北大(2)	0	67″9
	横山	ノエル	北大(2)	−17	87″5
	真鍋	北　瑛	北大(3)	失権	

★三大学定期戦（於　酪農大　5月14日）

・出場選手……清水、野田、堀川

・戦　　績……準優勝

★北日本学生馬術選手権大会（於　帯畜大　5月21日）

・出場選手……石川、湯浅、根井、真鍋

・戦　　績……3位湯浅、4位根井

★44国体馬術競技強化指定馬選考審査会（於　浦河国体馬術競技場　6月3〜4日）

〈標準障害飛越競技〉

				減点	Time	Jump off
1位	原	トカチムサシ	柏友会	0	76″7	37″2 (-4)
2位	長屋	カリスタヒーロー	北星RC	0	84″7	37″6 (-4)
3位	川久保	トカチムサシ	柏友会	−4	83″7	
7位	仲村	北　銀	北大(4)	−15.5	128″0	

〈クロスカントリー競技〉

				減点
1位	仲村	北　銀	北大(4)	0
	前田	ノエル	北大(4)	失権

〈スピード&ハンディネス〉

				減点
1位	加藤	北　玲	北大同好会	0
	堀崎	北　玲	北大(3)	−4
	前田	ノエル	北大(4)	失権

★44国体馬術競技リハーサル大会（於　浦河国体馬術競技場　6月24〜25日）

〈総合馬術競技〉

				調教	耐久	余力	総減点
1位	紺野	利三郎	青森	$-135\frac{50}{60}$	$-2\frac{48}{60}$	−15	$-153\frac{38}{60}$

2位	布施	ヒロパピー	北星RC	$-148\frac{40}{60}$	$-\frac{24}{60}$	−15	$-164\frac{4}{60}$
3位	仲村	北銀	北大(4)	$-128\frac{40}{60}$	$-14\frac{50}{60}$	−25	$-168\frac{28}{60}$

★44国体馬術競技強化指定馬選考審査会（於 浦河国体馬術競技場 7月8〜9日）

〈総合馬術競技〉

				馬場	耐久	余力	総減点
1位	三味	艶飛	オーフルホース コミューン	$-114\frac{40}{60}$	$-31\frac{36}{60}$	−5	$-151\frac{16}{60}$
2位	原	ジャンボリバー	柏友会	$-127\frac{20}{60}$	0	−30	$-157\frac{20}{60}$
3位	酒井	騄龍	酪農大	$-128\frac{40}{60}$	$-20\frac{48}{60}$	−10	$-159\frac{28}{60}$
5位	林	北皇子	北大(3)	$-151\frac{40}{60}$	$-25\frac{36}{60}$	−35	$-212\frac{16}{60}$

〈標準障害飛越競技〉

				減点	Time
1位	長屋	カリスタヒーロー	北星RC	0	78″15
2位	中脇	ミ・アモーレ	浦河RC	−3	96″92
3位	大町	柏星	帯畜大	−4	69″15
	仲村	北銀	北大(4)	−20	81″30

〈クロスカントリー競技〉

				減点	Time
1位	堀川	北駿	北大(2)	0	3′27″
2位	長屋	北駿	北大同好会	−10	3′31″

〈成年2部馬場馬術競技 第3級課目〉

				得点
1位	丹治	ニットクジャンボ	JRA日高育成牧場	418
2位	星野	オサナチ テイション	石狩RC	413
3位	館谷	ヤマノプライズ	JRA札幌競馬場	400
	堀川	北駿	北大(2)	295
	仲村	北楡	北大(4)	262
	中戸川	北楡	北大(3)	244

〈スピード&ハンディネス〉

				Time	総Time
1位	中島	アールグレイ	浦河RC	78″27	78″27
2位	久保田	コジロウ	柏友会	70″81	80″81
3位	長屋	カリスタヒーロー	北星RC	69″99	84″99
5位	仲村	北銀	北大(4)	81″13	91″13

★第11回 北海道地区乗馬大会（於 北星RC 7月15〜16日）

〈標準障害飛越競技〉

				減点
1位	堀川	北駿	北大(2)	−4
2位	桜田	リュコウキネン	北星RC	−7
2位	網河	ビクトリーエース	札幌RC	−7
5位	堀崎	北玲	北大(3)	−9

	石　川	北　　　凛	北　　大(4)	失　　権	

〈婦人障害飛越競技〉

				減　点
1位	高　橋	メジロウィッカー	札幌競馬場乗馬スポーツ少年団	0
2位	渋　谷	ヘンリーシンボリ	北　星　R　C	0
3位	山　本	ホッカイスガタ	旭　川　R　C	0
4位	加　藤	パシオンM	北大同好会	－0.25
	湯　浅	北　　　凛	北　　大(4)	失　　権

★第1回ノーザンホースパーク馬術大会（於　ノーザンホースパーク　7月22〜23日）

〈スピード&ハンディネス〉

				Time	総Time
1位	布　施	ヘンリーシンボリ	北　R　C	57″0	57″0
2位	武　笠	フェニックス	碧雲クラブ	57″6	57″6
3位	仲　村	北　　　銀	北　　大(4)	64″4	64″4
8位	林	北　皇　子	北　　大(3)	71″0	74″0
9位	堀　崎	北　　　玲	北　　大(3)	73″2	77″2
14位	前　田	ノ　エ　ル	北　　大(4)	125″7	141″7
	福　庄	明　日　檜	北　　大(3)	失　　権	

〈標準障害飛越競技〉

				減　点	Time	Jump off
1位	マギーライト	シ　ド　ラ	日高ケンタッキーファーム	0	60″7	33″0(0)
2位	伊　藤	チャーリー	日高ケンタッキーファーム	0	53″0	33″3(0)
3位	堀　川	北　　　駿	北　　大(2)	0	55″3	36″4(0)
7位	林	北　皇　子	北　　大(3)	－3	61″5	
9位	堀　崎	北　　　玲	北　　大(3)	－4	52″7	
12位	仲　村	北　　　銀	北　　大(4)	－11	64″8	
	前　田	ノ　エ　ル	北　　大(4)	失　　権		
	福　庄	明　日　檜	北　　大(3)	失　　権		

〈コンビネーション障害飛越競技〉

				得　点	決　勝
1位	吉　田	ベネファクター	ノーザンホースパーク	350	350
2位	佐　伯	ヘンリーシンボリ	北　星　R　C	350	347
3位	マギーライト	ミカミミ	日高ケンタッキーファーム	350	190
6位	仲　村	北　　　銀	北　　大(4)	200	

★第25回北日本学生馬術大会（於　北里大学　8月4〜7日）

〈障害飛越競技（二回走行）〉

				一走目	二走目	Jump off
1位	大　町	柏　　　星	帯　畜　大	0	0	0
2位	近　藤	騄　　　駿	酪　農　大	0	0	－4
3位	松　本	C・ハットリー	北　星　大	0	0	－9

6位	仲村	北銀	北大(4)	0	−4
9位	堀川	北駿	北大(2)	−4	−4
11位	前田	北玲	北大(3)	−8	−3
13位	林	北皇子	北大(3)	−7	−9
	前田	ノエル	北大(4)	失権	

〈第3級馬場馬術競技〉

				得点
1位	仲村	北檢	北大(4)	321
2位	昆沙賀	伐折羅	東北大	302
3位	木村	騄狼	酪農大	298
4位	中戸川	北檢	北大(3)	292
6位	根井	明日檜	北大(3)	283
14位	真鍋	北瑛	北大(3)	238
17位	外山	北瑛	北大(2)	143.5

〈総合馬術競技〉

				調教	耐久	余力	総減点
1位	今村	柏斗王	帯畜大	−211	− 8.4	0	−219.4
2位	大町	柏星	帯畜大	−216.66	− 24.4	0	−241.06
3位	仲村	北銀	北大(3)	−217.33	− 56.4	− 5	−278.73
9位	堀川	北駿	北大(2)	−240	− 37.6	− 5	−282.6
14位	堀崎	北玲	北大(3)	−228.66	−176.8	−20	−415.46
	前田	ノエル	北大(4)	−203.66	失権	失権	
	湯浅	北凛	北大(4)	−216	失権	失権	
	福庄	明日槍	北大(3)	−219.66	失権	失権	

〈新人・新馬障害飛越競技〉

				減点	Time
1位	荒木	飛勝	帯畜大	0	50″78
2位	松井	勝皇	帯畜大	0	55″74
3位	寺島	勝皇	帯畜大	0	56″12
9位	横山	明日檜	北大(2)	−3	1′03″07
	仲村	北檢	北大(4)	失権	
	石川	北凛	北大(4)	失権	
	湯浅	北凛	北大(4)	失権	

★北海道市民大会（於　北星RC　8月20日）

〈一般障害飛越競技〉

			減点	Jump off
福庄	明日檜	北大(3)	0	0
伊藤	明日檜	北大(3)	0	-4
野田	ノエル	北大(2)	失権	

〈婦人・壮年障害飛越競技〉

中戸川	ノエル	北大 (3)	失権

★第25回東日本馬術大会（於　馬事公苑　9月29〜10月1日）

〈標準内国産馬障害飛越競技（予選）〉

				得点	Jump off
1位	宇野	ヤマニンダンディ	JRA馬事公苑	0	3″ 9(0)
2位	土屋	明姫	明治大	0	38″ 1(0)
3位	久保田	ハシピゴラス	明治大	0	39″ 9(0)
8位	仲村	北銀	北大 (4)	0	52″ 8(−4)

〈内国産馬障害飛越競技（予選）〉

				Time	総Time
1位	仲村	ナイトライダー	慶応大	70″ 1	70″ 1
2位	山下	富士川	山梨県馬連	70″ 9	70″ 9
3位	小寺	トラスト	R.C.クレインチ千葉	71″ 3	71″ 3
29位	仲村	北銀	北大 (4)	83″ 8	89″ 8

〈内国産馬障害飛越競技（選手権）〉

				減点	Jump off
1位	宇野	ヤマニンダンディ	ＪＲＡ馬事公苑	0	32″ 5(0)
2位	土屋	明姫	明治大	0	33″ 4(0)
3位	武笠	フェニックス	碧雲クラブ	0	37″ 7(0)
25位	仲村	北銀	北大 (4)	−8	

★第11回山下杯記念馬術大会（於　酪農大　10月10日）

〈ジムカーナ競技〉

				Time
1位	米澤	騄鷹	酪農大	26″ 59
2位	八田	騄鷹	酪農大	28″ 52
3位	佐野	北皇子	北大 (1)	29″ 57
5位	祝前	北玲	北大 (1)	33″ 25
7位	徳本	北凛	北大 (1)	34″ 14
10位	武藤	北駿	北大 (1)	43″ 48
12位	永田	北凛	北大 (1)	51″ 54

〈Ｌ級競技〉

				減点	Jump off
1位	横山	北皇子	北大 (2)	0	53″ 30
2位	福庄	北玲	北大 (3)	−3	1′ 06″ 08
3位	山元	騄閃光	酪農大	−11	1′ 03″ 95

〈Ｍ級Ｃ競技〉

				減点	Jump off
1位	近藤	騄駿	酪農大	0	28″ 11(0)
2位	大久保	騄閃光	酪農大	0	48″ 64(−3)

3位	堀川	北駿	北大(2)	0	23″61(−4)

★第24回北海道白馬馬術大会（於　帯広畜産大学　10月14〜15日）

〈第3級馬場馬術競技〉

				得点
1位	川久保	ホワイトキッド	柏友会	374
2位	久保田	アブサン	柏友会	367
3位	岡本	ジャンボリバー	柏友会	336
15位	堀崎	北楡	北大(3)	275

（婦人の部）

1位	増元	トカチムサシ	柏友会	362
2位	西岡	ウィンディ	柏友会	351
3位	山川	コウジョウ	畜大	345
4位	小林	北凛	北大(3)	279
5位	真鍋	北凛	北大(3)	277
6位	高村	明日檜	北大(2)	269

〈新人・新馬障害飛越競技〉

1位	原	ジョイフルアロー	柏友会	1′18″	0	56″9(−4)
2位	川久保	ジョイフルアロー	柏友会	1′18″	0	1′08″0(−4)
3位	賀山	ジョイフルアロー	柏友会	1′17″	−8	
	長屋	北楡	北大同好会	失権		

★第3回障害馬術選手権大会　第10回親善馬術大会（於　岩見沢乗馬クラブ　10月21〜22日）

〈第2級馬場馬術競技〉

				得点
1位	谷口	シルビア	フロンティアRC	326
2位	木場谷	白峰	岩見沢RC	314
2位	百瀬	アイノハヤテ	碧雲クラブ	314
9位	真鍋	北凛	北大(3)	289
10位	外山	北瑛	北大(2)	288
11位	加藤	パシオンM	北大同好会	285
15位	堀崎	北楡	北大(3)	274
17位	平山	明日檜	北大(2)	257

〈婦人・壮年障害飛越競技〉

				減点	Time
1位	三味	艶飛	彗星RC	0	43″01
2位	三味	ノースワンダー	オーフルホースコミューン	0	51″00
3位	山上	ツバサ	岩見沢RC	0	53″00
8位	加藤	パシオンM	北大同好会	−7.75	1′28″00

〈ジムカーナB競技〉

				Time
1位	岡田	クロスサハラ	フロンティアRC	39″07
2位	高橋	ホッカイスガタ	旭川RC	42″79
3位	坂本	ロンシャン	すずらんRC	40″48
	池田	北玲	北大(1)	46″09
	仲村	北楡	北大(4)	47″87
	横幕	北凛	北大(1)	1′09″02

〈L級競技〉

				減点	Time
1位	上野	騄狼	酪農大	0	53″5
2位	大林	ノースワンダー	ゼロライディング	0	53″8
3位	大林	ノースワンダー	ゼロライディング	0	53″9
4位	中戸川	明日檜	北大(3)	0	54″5
	福庄	北玲	北大(3)	0	1′04″0
	横山	北皇子	北大(2)	0	57″1
	林	明日檜	北大(3)	−6	

〈L級B競技〉

1位	松井	天山	石狩RC	0	44″0
2位	山本	ノースワンダー	オーフルホース コミューン	0	44″4
3位	飯野	クロスサハラ	フロンティアRC	0	44″7
5位	高野	北羆	北大同好会	0	49″6
11位	佐藤(美)	北皇子	北大(2)	0	55″8
	仲村	北楡	北大(4)	−4	50″8
	長屋	北楡	北大同好会	−8	48″2

〈コンソレーション〉

				減点	Jump off
1位	加藤	パシオンM	北大同好会	0	21″0(−4)

★第39回全日本学生障害飛越競技会（於　馬事公苑　10月31〜11月1日）

第32回全日本学生3－DAY EVENT（於　馬事公苑　11月3〜5日）

〈二回走行：個人〉

				一走目	二走目	二日間Time
1位	森北	慶舜	慶応大	0	0	210″1
2位	蔦木	白桜	中央大	−4	0	208″9
3位	土屋	明姫	明治大	0	−4	211″0
	仲村	北銀	北大(4)	−20.5	失権	

〈総合：個人〉

				調教	耐久	余力	総減点
1位	久保田	明珠	明治大	−134	0	0	−134
2位	細野	桜四郎	日本大	−157	0	−10	−167

3位	加藤	桜	翠	日本大	$-136\frac{1}{3}$	-20	$-14\frac{1}{4}$	$-170\frac{7}{12}$
	仲村	北	銀	北大(4)	-201	棄権	棄権	

★OB戦（於　北大 11月19日）

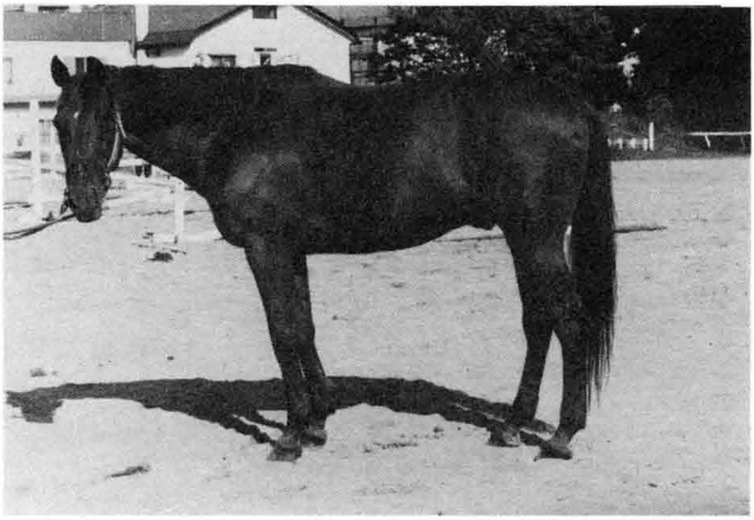
〈L級競技〉

					減点	Time
1位	井上	北	凛	北大OB	0	43″6
2位	野中	明日	檜	北大OB	0	43″9
3位	真鍋	明日	檜	北大(3)	0	44″4
4位	小林	北	凛	北大(3)	0	46″8
6位	伊藤	北	羆	北大(3)	0	50″2
6位	清水	北	凛	北大(2)	0	50″2
8位	外山	明日	檜	北大(2)	0	51″8
9位	堀川	北	玲	北大(2)	0	52″2
10位	高村	北	玲	北大(2)	−8	1′28″6
	堀崎	北	楡	北大(3)	失権	
	中戸川	北	楡	北大(3)	失権	
	佐藤(留)	北皇	子	北大(2)	失権	
	平山	明日	檜	北大(2)	失権	

〈ジムカーナ競技〉

					Time
1位	池田	明日	檜	北大(1)	49″1
2位	佐野	北	凛	北大OB	1′00″2
3位	永田	北	玲	北大(1)	1′10″8
4位	木佐貫	北	凛	北大(1)	1′27″5
5位	飯田	北	瑛	北大(1)	4′14″4

北　皇　子　号



騸　サラ　栗毛
昭和51年5月12日生
新冠郡新冠町産
父　アストラルグリーン
母　ハーバーガール
競走名　ハーバーギャラン

北皇子号調教報告

林　　　憲　吾

調教報告を書くにあたり、北皇子に騎乗した一年間をふり返ってみて、自分の力のなさを痛感した。自分にとってみれば今までの22年間の中で最高の一年であったにもかかわらず、結果をみれば、全日学出場が当然の北皇子で権利をとる事ができなかった。部員を始めとして歴代のチーフ、OBに対して本当に申し分けないと思うが、それ以上に北皇子に対してすまないと思う。全て自分の責任である。いったいこのシーズンは北皇子にとって何だったのだろうか。ただ年を一つとらせただけの一年間だったのか。自分が北皇子に乗った意味は何だったのか。確かに自分なりにいろいろ考えてやってきたし努力もしたつもりだ。自分にとっては大変意味のある一年だった。しかし結果はこんなものだ。自分が乗ってきた一年間、自分が考え、そしてやってきた事、それははっきり言って失敗だったのだ。いったい何を残せたのか。北皇子に教えた事は何一つなく、北皇子から教わる事ばかりだった。本来ならば、ここに書く事は何一つない。一度は一年の経緯を振り返ってみたものの、そんなものは何の役にも立たない。ただ、これから一頭の馬に乗っていくことになった人にとって、自分が思い、考えたことが、ちょっとでも参考になる事があれば、失敗例としてでも聞いてほしい。

とにかく思いっきりやる事、馬体が心配だからといって中途半端にやるのは一番良くない。自分は北皇子の右前の球腱軟腫が気になって思う様にできなかった事がしばしばであったが、それらは全て良い結果にむすびつかなかったし、妥協にもつながったと思う。ただ決して無理をしろというのでは

なく、やるときめたからにはやるべきで、やらないときめたらやらないという事だ。自分の思った事を信じて思いっきりやれば良いのである。他人の意見はたしかに重要であるが、その馬に一番乗っているのは自分であり、その馬を一番良く知っているのも自分なのだから。

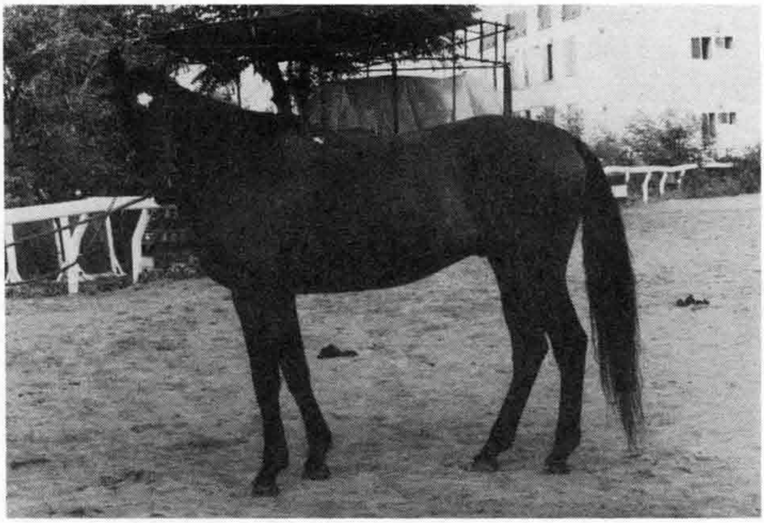
常に基本にもどる事。自分一人で乗ると、我流になりがちである。確かに馬それぞれにあった乗り方や、やり方があるだろう。ただ、それがどこかで独りよがりになりがちで、自分に妥協してしまう事が多い。いつでも自分を客観的にみて、そして基本を忘れない事。

何ができて、何ができなくて、何をすべきなのか、いつも考えている事。自分ができている事に満足してしまってもダメだし、できない事に悩んでばかりいてもいけない。そして一番大切なのが、「何をすべきなのか」。自分の目標をしっかりとらえ、そのためには自分はどうすれば良いのかを常に考えて行動する事が、騎乗に関しても、他の事に関しても必要だと思う。

だらだらと思った事を書いてしまったが、自分が、これらの事に対して十分でなかった事が失敗した最大の原因だったと思う。こんな事は当然であり、それ以上のものを目ざしていたはずなのに。

調教報告にはほど遠い文章になってしまったが、今、自分に言える事はこのくらいである。でもあと一回、今度こそはこんな調教報告ではなく、自分のやり方を堂々と書いてやる。最後になったが、再び北皇子に乗る事にはならなかったのにまったく無責任ではあるけど、来年こそは必ず良い結果を出してほしいと思う。北皇子はまだまだ全日学にいく力をもっていると自分は信じているから。

北　銀　号



騸　サラ　鹿毛
昭和55年4月28日生
上川郡新得町産
父　ヤマブキオー
母　ソーゴータカラ
競走名　トカチヤマブキ
　　　　オー

北銀号調教報告

仲　村　秀　喜

馬事公苑の診療所の床は、血の海だった。ギンの鼻からは血が流れ出ていて、何時間も止まらなかった。自分が怪我をしていないのが、悔しかった。4年間の総決算であるはずの全日学は、最悪の結末となった。幾らあやまっても、済まされる問題ではなかった。

某OBのN氏が、2年前に、現役に向けて書いてくださったメッセージの中に、次のようなものがあった。

『問題発言ととられるかもしれないが、俺はこうこうで失敗したけれども、次に乗るものはこうやったらいいと思う、という類、あれははっきり言ってあまり参考にならない。個々の問題でなく、騎乗期間を通してみて、人と馬のコンビを考えた時、人と馬との信頼関係をブチ壊す要因と言うのは、当人が気付いた物……といっても、おおかた独りよがりのケースが多いが、……以上に山ほどあるのに比べ、良好な関係を保つ秘訣というのはあまりに少ない。それを会得できるか否か。聞くべきは成功者の言。』

鋭い指摘である。冒頭の文句など、役に立たないこと、このうえない。しかし、事実を伝えることの大切さもあるはずである。これは、私の責任であり、弁解の余地はないのであるが、そもそも今年の調教報告に、技術的にあるいは精神的に成熟したOBや、馬術関係者からみた『成功者の言』が、現役からでるかどうか、疑問である。けれども、その時その瞬間真剣であったという事実は存在するの

である。世の中に、正しい答はないが、事実は存在する。色々と、理屈をこねたところで所詮は、チーフのマスターベーションに過ぎないだろうか。

さて言い古されている言葉で恐縮だが、私は、北銀には技術的には何も教えていない。何もしていない。彼に私が求めたものは、エースとしての自覚のみであった。『俺が乗って、おまえが飛ぶんだ。今の俺達は、大黒柱でなければならないのだ。自信をもって行こう。』と。口に出したら精神年齢を疑われそうだが、特に試合の前は、こういう心境であった。下級生に、私よりうまい奴はいた。馬の能力からいったら、北玲や北駿の方が上であった。『北銀がエースのうちは、北大は強くならない』『この馬は120cmまでの馬だ』『何だこの変な常歩は』『おまえが乗ったって駄目だよ』etc……反論は、できなかった。しかし、これらの罵倒が、出発点であったのだと思う。

準備運動で、常歩で馬がなかなか丸まらない時、速歩だとうまくいくことがある。ある時偶然いらっしゃっていた鷲田さんに、うまくいかないのは、常歩ペースが、悪いからだと言われた。人それぞれに、それぞれのペースがあるように、馬にもそれぞれのペースがある。リズムがある。前肢旋回をするときも、斜横歩をするときも、まっっすぐ前に進むときも、同じリズムを維持しなければならないというものである。出したばかりで、ふまじめで、体がほぐれていない時は、放棄手綱で一生懸命前に出す教とだけ考えていればよい。しかし、口を持った状態の、理想的なペースは、馬によって異なる。拳と、脚の間に『ためる』感じが、常歩ではわかりにくい。『常歩ができるようになったら、一人前だ』とは、やはり、名言であろう。

速歩では、馬体の柔軟性を求めて、反対手前の輪のりや、肩を内へ、斜横歩、馬体の手前を変えないでの輪のりの手前変換などを、多く実施した。よくこの馬は右が固いとか、左が固いとかいわれるが、半分ぐらいは、乗り手に起因するのではないかと思う。私の左右のバランスが悪く、右の口が、固くなって右回転が悪くなったのは、乗り手のせいで馬が悪くなる好例（悪例？）であろう。

駆歩では、踏歩変換を試みた。馬体の柔軟性を養うため、主にそこからくる障害飛越で後肢のみ手前が変わらず不正駆歩になるのを防ぐためである。今の北日本学生のレベルからいって、踏歩変換ができれば、賞典馬場馬術に出場できるという色気も少しはあった。まあそれは冗談としても、総合の順位は調教審査で決まる現在、馬場馬術的なもう1ランク上の技術は必要とされてきている。反対駆歩がやりにくくなるからと踏歩変換を教えない時代ではなくなってきていると思う。

やり方はオーソドックスに、調教審査が踏める程度の準備運動をし、斜め手前変換を、駆歩くのハーフパスで行い、埒にぶつけるようにした。しかし、時に後肢のみそのままであったり、口を必要以上に当ててしまったり、逆効果の部分もあったので、妥協して駆歩の横歩のみを繰り返した。これは、経路走行にはマイナスかとも思ったが、柔らかくなることは確かなので随時行った。踏歩変換は、障害飛越には必要なことなのは確かであるが、飛越練習の時気をつけるにとどめた。細かいことにこだわるよりもリズムを崩したり、障害に対していやなイメージを持つようになることの方が怖かったからである。

春先の飛越練習は、障害に向けると、興奮してしまいどうにもならなかった。季節柄、どの馬もその傾向はあるのだが、北銀の場合、とにかく突っ込んでいくだけで、ひどいものだった。そのような時、運よく、大坂氏に見て頂ける機会に恵まれ、連続障害の途中に人間がたち、馬を、いったん停止

させ落ち着かせることを学んだ。人間の重心が前にかかっていることが、大きな要因であることを学んだ。人間が、正しく乗ることの重要さを改めて痛感した。

普段は、間歩を変えたコンビネーションが中心であった。ばねはないが力はあるので、踏切をあわせる練習であった。ノーマルな間歩でも1間歩少なく飛んだり、多く飛んだりできる力はあり、障害に対して自信はあるのだから、どうすれば楽に飛べるようになるのか彼に分かってほしかった。高さは、あまり低いとまじめにとばないので、すぐ100cmぐらいにした。かといって高くし過ぎると、リズムを狂わすことが、多かった。リズムがあったところで終わりにするように、心掛けた。

乾濠や、リバプールは、余り気にしなかった。浦河の最初の試合でボリュームのあるリバプールオクサーの連続が出た時は止まられたが、これは準備運動の失敗が原因であり、それ以降はの試合では反抗されなかった。人間が、弱気にならなければ、問題は少なくなっている。これは歴代チーフの苦労の成果ではないかと思う。

5月の半沢杯、6月の選考会、記録会、国体のリハーサル大会、7月の公認大会、ノーザンホースパーク大会と、踏切があわないなど、走行は不安定ではあったが、回を追うごとに、折り合いが、ついてきた。このような時、2頭乗りをする事になった。短時間で運動を終わらせなければならなくなったことは、プラスだった。その日できなくても、すっぱりあきらめ、明日にやり直す習慣がついた。北銀の良さ、悪さを、体で感じることができた。しかし、時間的な問題から、細かい欠点や新たな課題は見送らざる得なかった。つきあう時間が減った。2頭乗りは、ひとにはプラスかもしれないが、馬にはマイナスであるのは確かだった。北日はすぐだった。

北日学での緊張は、初めて試合に出た時以上のものだった。『メンタルタフネス』ではなかったが、精神トレーニングだけは、入念に行ったのが、勝因であろうか。よく言われる、障害の経路を順番にイメージしながら『ここで右に曲がって、体を起こして……』とは別である。私は、自分に、ギンに、暗示をかける。

『これだけやってきたんだ。経路も難しくない。止まることはない。きっと満点だ。そう信じよう。疲れてる？気合いだけど、言い訳するな。絶対勝てるって。おまえが勝てなかったら、だれが勝つ？大丈夫。タ行5段活用。勝たねば、勝ちます、勝つ、勝つとき、勝てば、勝とう、ゴールを切れた。やった。』

障害の一落下は、直線が長すぎて踏切を見誤ったためであり、野外走行のタイム減点は、距離の測り間違いとしか思えなかった。あせることも、興奮することもなく、余裕の走行だった。乗り手は『待ち』の姿勢で良かった。

馬事公苑での、東日本は完璧な走行だった。満点だった。馬を信頼し、自らは誘導することのみ考えた。一番の不安は、興奮して、どうにもならなくなることであった。馬事公苑というところは、さすがに良く考えていて、準備運動場の周りが木で囲まれており、興奮しにくいようになっている。そのせいもあり、全く興奮しなかった。また、北大の馬が複数で来ているときに、他の馬が見えなくなると不安になるくせに、1頭の遠征だと度胸が座り全く動じない。取り越し苦労だった。

勝因は、技術的に折り合いがついたというほかに、勢いがあった事だと思う。プロ野球で、昨年近鉄が優勝したが、戦力的に、西武のほうが、勝っていたのは事実である。馬は自ら障害に対して自信

と勇気を持っている。乗り手も馬を信頼し自らの技術を過信し、上手に乗れていると信じている。勝負は運である。しかし、運は、呼び込まなければならない。自信を持つことは、その最低条件である。不安に思ってはいけない。馬に不安に思わせてはいけない。

東日本大会が、終わると、全日学まで丁度1か月であったが、一度帰ってくることにした。馬の輸送の疲れと東京と北海道の気温差を考えたときに東京にずっといたほうがいいといった考えもあった。しかし、馬運車も、空調完備の競争馬用の車を、他団体と乗り合わせて使う事になり、18時間で輸送することができた。これは普段の遠征で使っている家畜輸送用の吹きっさらし横積みとは違い、ほとんど揺れず、快適である。競争馬でも最近は、当日輸送をすることが多い。勝ってな思い込みかも知れないが、やはり住み慣れたところが一番いいだろうと、そう決めた。

東京から帰って1週間、運動はほとんどしなかった。今シーズンを通してだが、試合の前後の運動量は厳しく制限した。さく癖もあるし、体力もあまりあるほうではない。この頃、北銀を知っている人たちに『最近元気がないんじゃない？』と、言われるようになった。放牧の時の行動にも、やんちゃな部分が減ってきていた。『彼にも、エースとしての自覚・貫禄が出てきたのだろう。北大でも2番目の古株になったのだし……』といってられなくなってきた。現実に、体重も、減ってきていた。こんなつまらないところで、人馬一体になっても洒落にもならない。神経をすり減らして、遠征から帰ってきているのである。とにかくゆっくり休んでほしいという心境だった。

話は少しはずれるが、シーズン中は、試合に出場する馬と出ない馬との練習内容を変える必要があると思う。試合に出ない馬は、下級生を多く乗せて運動量も上げていい。そして試合に出る馬、出た馬を負担をもっと軽くしてやるべきだ。練習中だけを考えると、難しいのだが、チームで馬を管理している以上、馬の精神的肉体的負担をトータルに考えて、平等にしたいものである。

馬事公苑の全日学2回走行1回目。準備馬場で馬は全く興奮しなかった。狭い馬場で馬が多いと、蹴ったりしないかと心配した馬とは、とても思えなかった。人も、馬も落ち着いていた。しかし、止まられた。失速が、原因であった。

馬を信じるという言葉がある。『信じる』の美名のもと、何も馬に働き掛をしなかったのではないだろうか、帯畜大に、柏星という名馬がいる。国体で彼に騎乗し優勝した大町と、話をした。ある実績のある馬にのる。けんかをしながら、馬から学んでいく。これは、馬の力のみである。そして、馬と人の呼吸があってくる。よい、成績がでる。そのうち、馬が人を頼るようになる。馬は、私の扶助に、敏感になる。乗り手は、踏切を読むこと、落下を防ぐことを考える。ゆっくり飛ばすことを考えるようになる。今まで、馬任せでとんでいた。自分の失敗を『馬を信じる』ことでカバーしていた。馬術の道として、間違ったことではない。しかし、技術もないのにすることではなかった。。推進不足や、拳の動揺が起こるだけであった。人間が、踏切を読むということは、『馬を信じる』ことではない。自らの技術を過信したおおきなしっぺ返しだった。

まだ、総合馬術競技が、残っていた。1週間後には、そのまま馬事公苑で、全日本障害飛越大会も控えていた。中野さんの電話に励まされ、長屋さんの電話でアドバイスを受け、他大学を含めた4年目と意見を交換し、気持ちを切り替えていった。

1日目の調教審査では、自己ベストをマークし、2日目の耐久審査に臨んだ。耐久競技では、初めて

準備運動をまじめにやった。障害前で、1歩入れないで大きく飛ばすこと、駆歩の伸縮、馬場の長蹄跡を思いっきり走らすことであった。スタートの時刻になった。全日学の耐久は、前半に、ボリュームのある障害が、集中している。前半が勝負だった。問題の、大きな幅とボリュームのあるセレクト障害や、スキージャンプ、水濠などはクリアーしていった。後半は惰性でいけそうだと睨んでいた。生けるはずだった。ところが今度はペースが落ちなかった。気がついたらピアノバンケットに横たわっていた。直ぐに乗らなければと思い、飛び乗り、走行を続けた。しかし、あと少しというところで、ドクターストップがかかった。鼻から血が滴っていた。直ぐに下馬した。部員が集まってくるのが分かった。診療所への道はなんとなく分かった。自分が、取り返しのつかない、だれに謝っても許されない大きな過ちをしてしまったということだけ分かった。

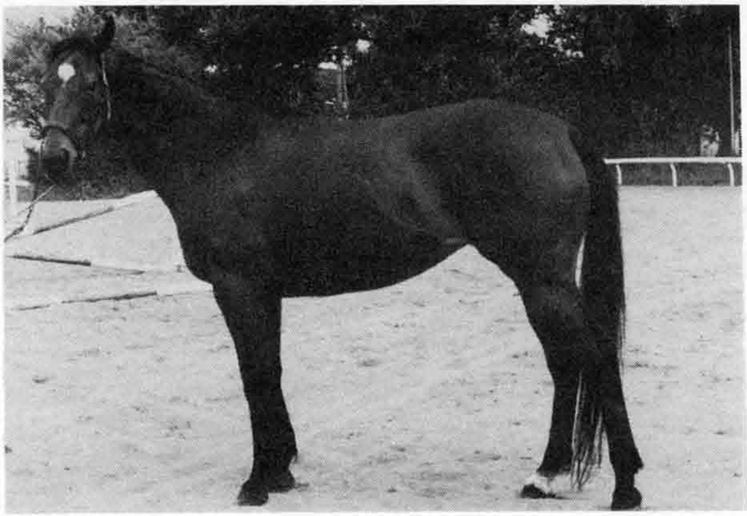
診療所に着いた。鼻が上をむくように固定された。止血剤。血は止まらない。床が、みるみる赤くなっていく。脱脂綿を幾ら使おうが、床を幾ら水で洗おうが、血が滴り続ける。そんな時、京大脳間が、走行中に急死したという連絡が入った。頭が陥没したという馬が、運ばれてきた。死なないでくれ。それだけしかなかった。

3時間後、滴り続けた血はやっと止まった。この間、診療所の先生方は、終始大丈夫という態度を問ってくださっていたが、内心は、全然は、全然大丈夫では無かったと、後日聞いた。

今では銀は、何事もなかったかのように、げっぷをしている。

最後に、決して素直とは言えなかった私に親身の助言・忠告をくださった多くの方々ーー他大学も含めたOB、同輩、馬術関係の方々に深く感謝し、結びとしたいと思います。どうもありがとうございました。

北　玲　号



牝　サラ　鹿毛
昭和56年4月8日生
幌泉郡えりも町産
父　ノーザンアンサー
母　クレメンタイン
競走名　クイーンクレメン

北玲号調教報告

堀　崎　敬　史

調教報告とは言っても、実際に自分に何ができたかを考えるとどう書いたらいいのか良く分からないと言うのが正直なところです。取り合えず思い付くままに書いてみようと思います。

北玲には3月から乗り始めた。その時までの北玲に対するイメージは、素晴らしい能力を持った馬で、それゆえに非常に難しい馬といったものだった。また、前年度の全日学総合では加藤姉が騎乗して第5位という素晴らしい成績を残していたから、そのプレッシャーもかなりあった。北日学まで僅か5ヶ月しかないという状況でどのようにしたら上手く乗れるのか、やるしかないのにそんなことばかり考えていたような気がする。

乗り始めからしばらく加藤姉に見て頂いた。人間がとにかくヘタクソだったから、一早く癖を直して上手くなること、3月はこればかりやっていた。自分の拳がとにかく硬かったから、拳を譲るタイミングと脚の兼合いがなかなか分からず苦労した。

その一方で北玲との信頼関係を築く努力をした。例えば、外乗で前を持ちきちんとハミを受けさせて除雪車などが来ても怖くないんだよと教えてやったり、できるだけいろいろな所に曳き馬で連れて行き、話しかけてやったりした。できるだけ北玲のそばに居て顔を覚えて貰うようにした。北玲は臆病な馬であり、試合場でも興奮しやすいたちだが、一度納得してしまえば何ということもない。試合で如何に早く馬を落ちつかすことができるかが準備運動の鍵を握っていると思っていたので、自分と

の信頼関係は早くからしっかりと作っておきたかった。

4月の上旬に栗東トレセン乗馬苑の竹ノ下先生が来札され、主に障害飛越中心に見て頂いた。いろいろなことをやった気がするが、自分にとってはそういった中身よりも障害飛越において全く馬について行けないということを思い知らされた事の方が収穫だった。障害飛越の為の準備運動をどうするか、障害へのアプローチの仕方、随伴とどれを取ってみても全く駄目であった。半沢杯も目の前に迫っていたし、またそのあと試合がたて続けにある事を思うとかなりあせった。とにかく加藤姉には継続的に見て頂く事にした。

半沢杯は北玲とのデビュー戦であり、その時点での自分の実力を考えて3級と小障害にエントリーした。シーズン最初の試合と言う事もあって、初めにあった3級の準備運動は馬が興奮して余り準備運動ができなかった。やはり自分の拳が強いため待機馬場にいる時も馬が少しいらついていたし、本馬場では人間の方が緊張してしまい、ただ課目をこなすだけになってしまった。小障害の方は、準備運動は2回目だったのでそう興奮する事はなかった。経路走行では、障害飛越時に必ずたてがみを持ち先飛びしないように気をつけた。結果としては1落下で、ペースが少し遅かったように思う。

6月に入って、浦河で選考会がありハンティングに出場した。この時は、人間が障害に慣れる事と、100〜115センチの障害を飛越する間隔を掴むことを目標とした。そのために、先に加藤姉に飛んでもらいそのあと自分が飛ぶことにした。結果は1落下。しかし、半沢杯の時よりはペースも良かったし、障害を飛越する感覚が掴めたようだった。障害前で脚を使い、体を起こすということはまだ十分にできておらずその辺が課題として残った。

6月中旬にモモセファームで記録会があった。経路は余力の経路で、すべて自分の力でやってみた。が、三反失権だった。今まで何とか上手くやってきたところだったので非常にショックだった。普段とは違う馬場で馬を落ち着けることができなかったし、推進不足でもあった。また、人間の先飛びも原因の一つだったと思う。今までの悪い点が一度に出た試合であった。

7月。北星乗馬クラブの初心者馬術大会の標準障害に出場した。結果は二反、いずれも人間の先飛びが原因だった。下旬には、北日学の経路回りのつもりでノーザンホースパークの馬場開きに出場した。ハンティングでは、すべて自分の力でやったがやはり失速しかけていた。また誘導の仕方も不安定で脚がしっかりと使えていなかった。2日目の標準障害では、結局加藤姉に下乗りをしてもらい1落下だった。この時の北玲は、前日とは異なり前に出ていたし、飛びにも力があった。しかし、この時点で自分は半分負けを認めなければ認めなければならなかった。北日学の二走は前田兄が、総合は自分が出ることとなった。北玲のことを考えての決定だった。自分としては非常に悔しかったし、また情けなかった。

北日学。1日目、2日目の2回走行では権利は取れなかった。そして自分の出番。調教では、準備運動に苦労した。前日までずっと障害飛越ばかりだったので、馬が前へ前へ行きたがりなかなか落ち着かなかった。軽速歩で脚を付けてリズム良く運動することに徹した。本馬場では、初め少しチャカチャカしたが、準備馬場とはうって変わって落ち着いていた。今までの中では一番良い馬場だったと思う。その日の午後小雨の中耐久が行われた。浦河のスティーブルを1回馴致していたのでスティーブルそのものへの不安は余りなかった。馬をとにかく前へ出して脚を付けること、これだけに集中した。結果としてはスキージャンプと水壕で落馬。どちらも人間が下を向いてしまい、馬について行けなかっ

たためだった。余力では、もう権利には手が届かなかったから、しっかりとした走行だけはしようと思った。1反1落下だった。この時の北玲は、もう気力だけで勇敢に飛んでいた。そんな彼女を東京に連れて行くことができなくて非常に申し訳ないと思っている。

何だか小学生の作文みたいになってしまいましたが、北玲自身のことについて、そう偉そうに言える立場でもありませんが、思い付いたことを書いてみようと思います。

馬体的なことについて

右腰の調子は余り良くない。治療としては、毎日マイクロウェーブを当てており、常に後肢を良く動かす運動をしなければすぐこずんでしまいがちである。僕自身、拳が硬かったのと脚が有効に使えなかったせいもあって、騎乗においてはなかなか後肢を動かすことはできなかった。それを補うため、夕方時間のあるかぎり調馬策を回した。このとき注意することは、馬がハミを引いてきた時十分に譲ることと、鞭を使ってしっかりと馬を追い、後肢を活発に動かしてやることだ。この調馬策を回したことは、自分の拳の鍛錬にもなり一石二鳥であった。

また、特にシーズン中かなりハードに障害練習をした場合には、十分過ぎるほどの曳き運動を要する。試合の時など次の日にいきなり破行したりしたことも何度かあった。今後は大丈夫と思っていてもやはり破行するので注意を要する。

メンタル面について

先にも書いた通り北玲は非常に重視されると思う。ちょっとしたことで、他の馬では何でもなくても北玲には非常に大きな影響があったりすることなど頻繁ではないだろうか。常に馬と対話をして彼女が今何を考えているのかを察してやらなければならないだろう（こんなことは北玲だけではなく他のどの馬にも言えることなのだし、また当り前のことだと思う)。また、北玲は非常に賢い馬でもあり、人間が考えていることはある程度察しているようだ。特に注射の時はその傾向が顕著であり、人間がどんなにそっけなくしても注射の雰囲気を感じ取り打たせない。注射に関しては、飼いを食べている時などに予め良くブラシをかけておいていきなりブスッとやるしかなかった。注射はそれでも良いのだが、採血となるとこれはどうにもならなかった。仕方ないので獣医の枠場に連れていった。枠場ではさすがに堪忍したらしく、おとなしかった。チーフとの信頼関係次第ではこんなことまでする必要はないだろう。

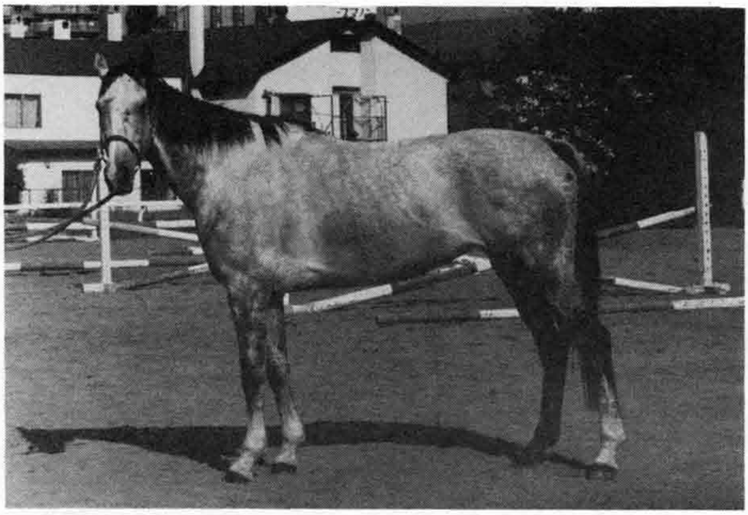
信頼関係で思い出したけれど、先にも書いたように僕は北玲との信頼関係を1日でも早く作ろうと努力した。しかし、結果的に本当に彼女との信頼関係ができたのは、皮肉にも北日学の耐久を回ってからだった。その日は、自分に対する北玲の態度は何となく普段と異なっていたし、次の日の余力の準備運動では、馬が頼ってきているのが強く感じられた。

騎乗について

とにかく脚を使って前へ出すこと。その中で楽に拳を譲っていけば泳ぐような動きをしてくる。僕は拳が硬く、そのせいで北玲も首を硬くしていた。こうなっては背中も使わないし、良い動きをしてこない。あと、障害では特に小さい馬なので先飛びは禁物だ。

最後にこの5ヶ月間、自分を支えてくれたすべての人と、そして未熟な騎手を載せて頑張ってくれた北玲に、ありがとうございましたと言うとともに、ごめんなさいと謝ってペンを置きます。

北　凛　号



牝　サラ　芦毛
昭和57年4月8生
浦河郡浦河町産
父　セダーン
母　ヤマンンパベー
競走名　ヤマンスプリング

スプリングは昔北大に来たばかりの頃は真黒だったらしいけど今ではもうずいぶん真白です。悪い夢を見やすい体質らしく夜になると奇妙な叫び声が馬房の奥から聞こえてくるのです。そんな彼女も湯浅姉とのコンビでずいぶんいろんな経験をつみ、これからの楽しみな馬なのです。

北　駿　号

騸　サラ　鹿毛
昭和58年4月3日生
三石郡三石町産
父　トップホース
母　プルコワヒメ
競走名　チャフルガイ

北駿調教報告

堀　川　環　樹

1年目の3月から長屋さんの下で馬体管理責任者となり、半沢杯後からチーフとして11月までチャフルに騎乗した。チャフルに騎乗した約8ヶ月間のメモを見ても、書いてあるのは人間の姿勢等の反省ばかりで今更ながら、日々の練習が試合にむけての長期的な調教になっておらず、チーフとしての自覚に欠けていたと痛感している。調教報告というものは書けないが、今後チャフルに騎乗する人々が同じ失敗を繰り返さないために反省を書いておこうと思う。

馬体に関しては、競馬馬を引退する原因となった前肢の“エビ”と腰は現在では問題ないが、左前肢管理に胡桃大の骨瘤があり運動後に熱を持ちやすく膝に近いために注意が必要である。

性格は、大変気が小さく臆病であるが人を見る所があって馬の扱いに慣れた人やきびしく叱る人に対してはおとなしいが一年生が手入れをしたりすると言う事を聞かなくなり態度が豹変したりする。騎乗中は騎手に対して素直で障害に向けさえすれば前に出ていなくとも一応飛越していき、拒止したり逃避したりということはまずない。

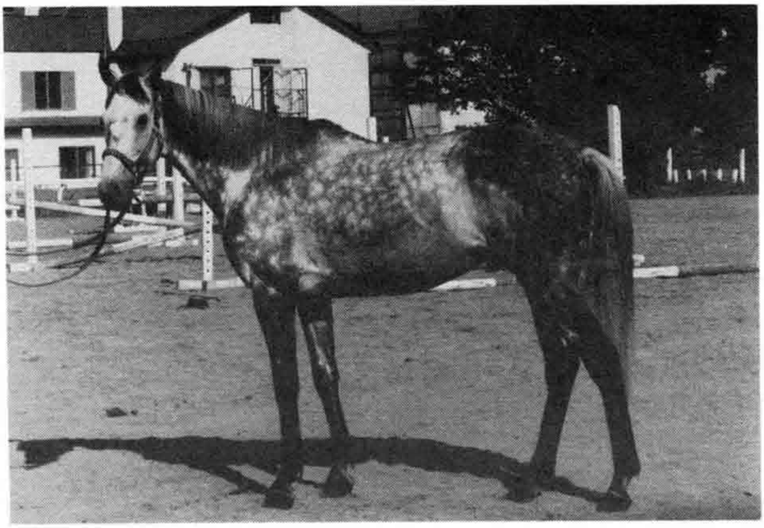
日頃の練習では、騎手の拳が脚力に比べて強すぎ前にかかりぎみで、1日の練習の中でも最初に比べて最後の方が手綱が重く脚反応も鈍くなるので、下級生が乗っても動かず下級生の為の練習にはならなかった。後肢旋回を中心に横運動を多めに取り入れて少し前にかからなくはなったが、前肢を大きく歩かせることは出来なかった。

障害の試合では、踏み切りをあわせることなどは考えずに素直ぐ障害に向けて馬の邪魔をしない様にじっと乗りスムーズな経路走行を目指した。準備馬場では、数回障害を飛越するうちに落ち着いてくるが、いざ本馬場に入ると一回一回障害を見て失速しのぞき込みながら飛越していくのでスムーズな経路走行とはかけはなれたものとなってしまった。しかし、ジャンプオフで1日の内に2回走行すると2回目はスムーズにかえってきたことが何回があった。騎手が馬と一緒になって緊張してしまい、腰が浮いて、きちんと推進してやることが出来なかった。試合中、騎手が推進出来た時には、フラットながらもスムーズに走行したことから、試合中のチャフルの不安は騎手の力で十分カバーしてやれると感じている。

7月の初めに初めて馬場の試合に出場したが、準備馬場では沈静運動に時間を取られてしまった。人の推進不足のせいもあり経路の後半になってやっと馬が前に出てくるといった結果ではあったが、馬体は柔らかく後肢を大きく踏み込んで歩くため審判に十分アピール出来、馬場での得点は期待出来ると思う。

結果としては、北日でチャフルの能力を引き出してやれず権利を取ることは出来なかったのだが、チャフルと共に多くの試合に出場してきて、試合場での臆病さは大きな問題ではないと感じている。結果を残せずにこんなことを書くのは無責任かもしれないが、今後、北駿が北銀、北玲と共に永く北大で活躍することを確信している。

北　　瑛　　号



騸　サラ　芦毛
昭和55年4月18日生
勇別郡鵡川町産
父　トレンタム
母　ホクエイフブキ
競走名　ニューギャロップ

北瑛号調教報告

真　鍋　いづみ

昨年11月から湯浅姉、石川兄に引き継いで北瑛に騎乗した。それから8月末までの10ヶ月騎乗した訳だが実際“調教”などというおこがましいことは何一つできず、馬に乗るということを北瑛に身をもって教えてもらった1年間となった。

馬に乗る、あるいは調教するということにあたって最も大切なのは自分の意志を馬に対して通すということではなく、馬の気持ちを人間が理解してやることである。私の場合それが十分にできなかったために結果的に馬に障害に対するこだわりを持たせてしまうことになり、またシーズンはじめに右前肢腱しよう炎になりそのためにシーズンを通して跛行して障害を飛べなくなったばかりが練習にも十分使えないという状態にしてしまった。クラブにも下級生にもそして北瑛にも申し訳ないと思っている。

騎乗しはじめた当初、ただひたすらに障害をとんでいた。単に飛越することが目的だと思っていた。馬が前進気勢のある良い状態、飛越数、良い飛び方、あるいはそのために人間の気を付けなくてはならないこと、つまり脚、拳の使い方etcなど名にも理解しないで“飛べば良いのだ”と思っていた。それではダメなのだと気づいたのは馬の気持ちを無視した無理なとばせ方それもへたくそな随伴で口を引っ張ることなどによって馬がかなり障害に対してこだわりを持つようになってからであった。

2月に入ってから前進気勢とリズムを重視して1からやりなおしていった。まずフラットワークでは

今までのように鞭に頼らずに二蹄運動を多めに取り入れたフラットワークで脚に対する反応を確実にし、伸縮をひんぱんに行うことによって脚反応を確かめて前進気勢を持たせていってから障害に向かった。障害はうさぎとびはほとんどせず間を1or2間歩入れて馬がとびやすい状態をつくってやった。また障害を蹄跡上につくることによって障害に向かうことを身構えずに楽に、リズムよく行うことを目指した。また1日の飛越数も少なめにと考えた。その結果高さは90cm程まででではあるが馬はかなり自分から飛ぶ気になって楽にとぶようになった。それから序々に障害を蹄跡から離していっての飛越を試みた。今までと同様に前進気勢をもって飛越できるようになった。ただし障害前で人間がどうしても追ついてしまうためか回数卯をかさねるにつれて馬が障害につっこんでいきがちになっていたがとにかく基本に忠実に拳を楽に体を起こして脚というイメージをもってむかうようにした。半沢杯では3級課目と新人新馬にエントリーした。3級課目に関しては馬は十分に能力はある。私も方もハミを受けた状態というのが何となくわかってきたのもこのころからであった。

馴致回数の少なさや本来肝っ玉の小さい馬であるため本番の準備運動で他団体の馬と一緒でどうなるかと心配したが北大の馬場であったためかかなりおちついた状態で課目をこなせた。

半沢杯での新人新馬については、試合前の何日かでどうしても飛越数が多くなり時間も長くなってしまいかなりの無理をしてしまった。左回転からのアプローチはスムーズであったが右回転をかなり極端に嫌い左肩から外ににげることが最大の問題でありそれをどうしても右拳でひっぱってしまったためますます外に逃げるという悪循環が続いた。結局それを克服することができず、人も馬も障害に対する恐怖感をもったまま試合となり3反抗となってしまった。

半沢杯が終わってしばらくしたころからそれまで無理したのがたたったのか右前肢が跛行しはじめた。結局それはシーズン終わりまで大なり小なり続いた。あるときは思いきって数日間馬休にしてみたり、またあえて運動量あげてみたりといろいろ心みたが変化はあまりみられなかった。

今シーズンは北海道で国体がある年で試合もかなり変則的で障害は高いレベルのものばかりであったということもあり半沢杯以後障害はほとんどとばず主に下級生のために3級レベルの馬場の試合に使っていき練習も下級生を主体にと考えた。

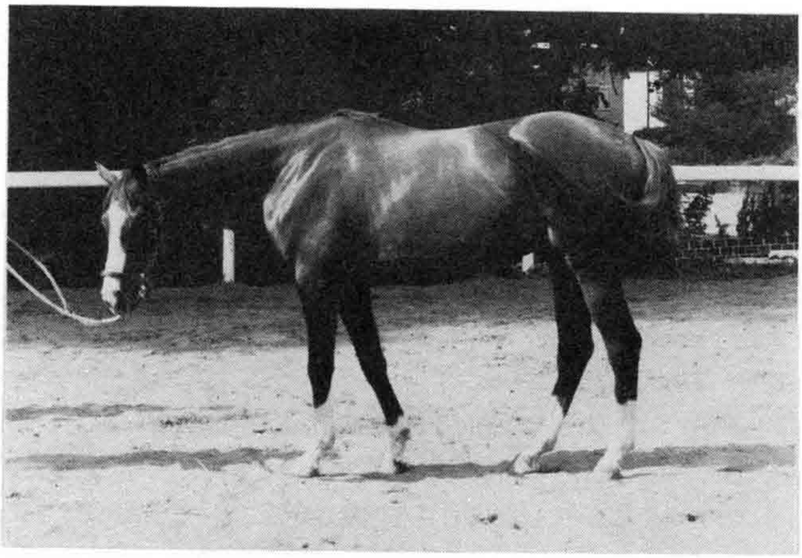
北日でも自分も3級馬場にエントリーした。10才ではあるが北大から外にあまり出たことがないためと本来小心者であるため、北里に行ってから何日たっても全く落ちついた様子をみせず飼もろくに食べず騎乗していてもそばにウシがいたためもあって2〜3日たってもおちつかなかった。たとえ障害をとばなくてももっと馴致に行くべきであったと思った。試合の準備運動もおちつかなくなる弱さがあり硬直したりはねたりした。結局本番も気持ちをのせてやることができずバタバタとさせてしまった。ただはねたりけったりしたかと思うとスッと手の内におさまるというムラがありそれは結局騎手のバランスからくるものである。北日の場合とはまた少しちがう北瑛は強い要求をされて馬が緊張してくると以上に扶助の許容範囲が狭くなる。つまり脚、バランスに極度に反応してしまい耐えられなくなり尻っぱねをしたりして反抗する。現役レベル以上の上手な人に乗ってもらうとほぼ必ずそういった状態になってしまう。

北日の時は緊張状態という面ではこれとは違うが緊張感あるいは不安感で頭が切れた状態になってしまうという精神的な弱さは否めないものがある。

さて、あと1年北瑛に騎乗することとなった。確かに先述のような弱さはあるが北瑛はどの馬よりも扶助を知っている馬であり、正確な扶助を正確な動きで答えてくれる馬だと思う。練習馬という立場であるため、下級生にもどんどん北瑛が伝えてくれるものを吸収してもらいたいし試合の数をこなすことや馴致などで北瑛にももう少し肝っ玉を大きくしてもらって何とかひと花咲かせてやりたいと思う。また北瑛騎乗に関して共に騎乗し調教あるいは指導してくださった半沢先生、また岡田監督には感謝の気持ちで一杯です。どうもありがとうございました。

さあ、ギャロップ！もう1年だよ。がんばろうね！

北　楡　号



騸　サラ　栗毛
昭和58年6月16日生
沙流郡門別町産
父　グレートセイカン
母　ミスポット
競走名　ポットチャンプ

北楡号調教報告

中戸川　周　子

2年目の12月より馬体管理責任者として乗り始め、4／16〜5／16は左前骨瘤のため馬休にさせてしまい、6月より中村兄とWチーフという形で乗り、試合を目指しました。調教報告と呼ぶにはあまりに内容が希薄ですが、昨年私の到らなさはどこにあり、そのことが北楡にどのように影響してしまったか、自分の未熟さにより、部員に対して、北楡の素晴らしい能力をアピールすることができなかったけれども北楡の能力を発揮させ、成長させるにはどんなことが必要とされるのか、今現在思うことを書いてみたいと思います。

12月〜3月は、金田兄の元で乗りました。その時の課題は、馬の反応を読みながら要求することでした。ところが私が自信の持てるような働きかけをせず、馬の反応をすべて自分の扶助が悪いからであるとして、反応の悪さへの対処の仕方を曖昧にしてしまいました。また、フラットワークが前へ出すことのみで終ってしまい、しかしそれも障害へ結びつかず、コンビネーションへ向けたとたんに前進気勢がなくなり、フラットワークをやり直してしまうという堂々巡りをしていました。馬の気分を乗せられるような障害設置の工夫や、よい飛越を見極める目を持っていなかったため、発展がありませんでした。

4月へ入ってから、大坂先生の講習会、竹之下先生や水野さんの来札をステップとして、半沢杯の新人新馬を目標にする予定でいましたが、大坂先生の講習会の最終日より左前破行のため1か月運動がで

きない状態にしてしまいました。馬体管理責任者として、くやみきれない大切な時期の馬休でした。

馬休あけに水野さんが来札され、常歩でのハミ受けと後退を教わりました。それまで後退を教えるために、障害馬術などを参考にしてやってみてはいたのですが、脚に反応し、ハミを受けとめられて後退するというところまでいかず、行きづまっていました。水野さんはまず輪乗りでハミを受けさせた常歩をし、その状態から後退をさせようとしました。北檢は始めはわからなかったようですが、水野さんが多少強引ではあったものの、一度強い脚で1〜2歩後退させてからは、目覚めたという感じで、後退の扶助に反応するようになってきました。その後、夕当時などもハミだけをかけて裸馬で騎乗し、正しい位置でハミはかませ、前に長鞭を持った人に立ってもらって後退させたり、曳馬時にも後退させてほめてやったり、何度もくり返すうちに、5日間ぐらいでスムーズに下がるようになりました。また、頭を下げて運動すると後肢が動くということもわかってきました。

6月に入り、馬体ももと通りになってきた頃から、仲村兄とWチーフで乗ることになりました。今まで私が動かしきれていなかった部分を、補ってもらえて、北檢にとってはよかったと思います。ここから先は仲村兄の調教報告と重複すると思います。

初めての試合として公認の3級を選びました。しかし北檢はまだ試合に出場する状態ではなく、目的は試合の雰囲気の馴致でした。そういう意味で公認を選んだのは大変失礼なことだと思っています。曳馬や放棄手綱での常歩で、馬を落ち着かせること、人間の注意を向けさせることを念頭においてやりました。試合の結果は惨々たるものでしたが、それからの方向性を見つけることができた試合でした。

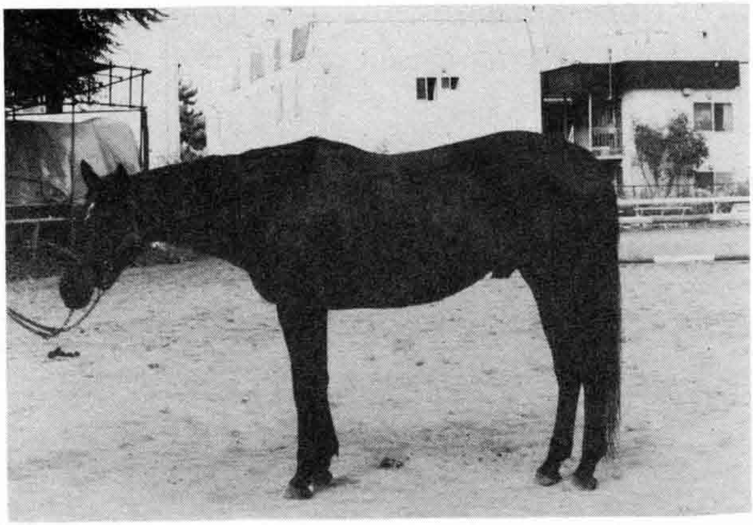
それからの練習は、シャンボンを使った調馬索などで駈歩の安定を中心にやりました。後肢が前肢についてゆかず背中をへこませて頸が上がってくるため、頭を下げた状態で後肢を動かすことを最重要にしました。なかなか頸を使った駈歩ができず、調馬索にたよることが多かったです。また内方姿勢をとらせようとするとハミからも腰からも逃げてしまうという欠点を持っていました。平石さんが来札された時に乗っていただき、両方均等に持って脚で内方姿勢をとらせることの大切さを学びました。今までは内方にも外方にも馬の逃げられるスキを作っていたこと、そういう乗り方ではハミ受けもできないことがわかりました。また、山田さんの来札の折にも乗っていただき、脚を使ったら前に出ること、頭を下げて手の内に入れて運動すること、人間がきめたペースをくずさないことなどを中心に指導していただきました。また、馬にも人にも自信をつけていける方法を学びました。できることを増やしてほめてやるということは簡単なことかもしれませんが、馬に納得させるようなほめ方ができていませんでした。これらのことを大切に復習して北日に臨みました。

北里でも、馬場や周りの環境に慣らすことから始めました。北大の獣医学部の牛は平気だったはずが北里大学の準備馬場の牛にはひどく慌怖感を持ったようで、なかなか落ち着かせられませんでした。仲村兄と相談して、牛にこだわらずに牛と離れた所から慣らしてゆき、北銀と一緒にさりげなく牛の前を通るという方法で2〜3日目には落ち着かせて運動させられるようになりました。馬を落ち着かせられるようになると、馬の緊張感を、人への神経の集中へと利用することができ、準備運動の時間をどんどん短くしていくことができました。

北檢の今シーズンの目標は、小障レベルの経路をまわれるようになることと、3級馬場をふめるよう

になることでした。3級馬場は、駈歩の不安定、ハミ受け、ペースの安定など課題は残されているものの、ある程度ふめるようになりましたが、障害ではうまくいきませんでした。これからの課題として、馬に障害を飛ぶ自信をつけさせることが第一に残されました。そのためには不安定な部分をできるところから安定させていくこと、馬によい飛越を教えていくことが必要とされます。よい飛越をするためえに、フラットワークでどのように馬を動かさなければならないか、また、よい飛びの把握などを、客観点に吟味しながら乗っていくことが大切なのではないかと考えています。

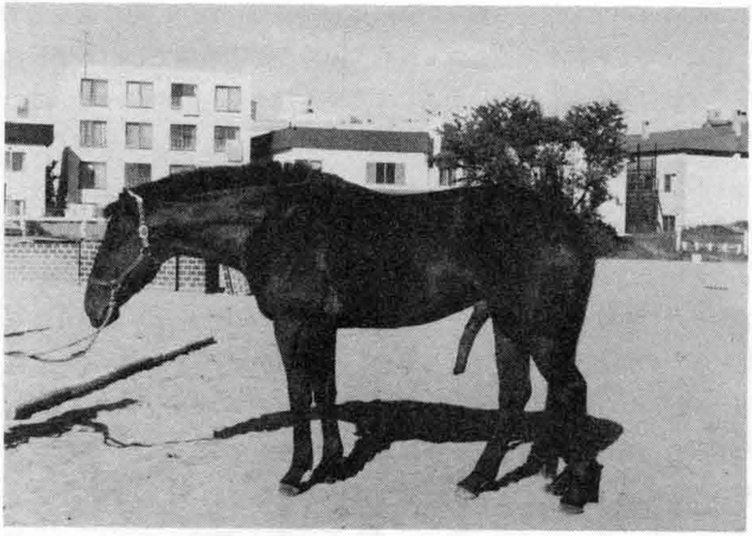
北　羆　号



騸　サラ　黒鹿毛
昭和59年4月24日生
新冠町産
父　ノーアテンション
母　ヤマニナッコ
競走名　ヤマニウィザード

クマと云えば男北羆です。長いこと馬休が続いてひき馬で大暴れしていたこともありましたが、高野兄の厳しい調教で最近は少しは大人になったようです。ちょっと鈍感なところもあるけど大きな身体と力で勝負！

グレンエトワール号



牡　サラ　鹿毛
昭和61年3月26日生
静内郡静内町産
父　サクラシンゲキ
母　ホシローズ
競走名　グレンエトワール

グレンエトワール号調教報告

長　屋　清　隆

エトワールは平成元年2月16日に水野さん、本城君の計らいではるばる栗東から入厩したのだが、右前肢骨折の予後ということで調馬索を始めたのが4月下旬、乗り始めたのは5月下旬だった。ちょうど北海道国体の年に当たっており、小生は7月末からなんとまあ2ヶ月近くも浦河に“単身赴任”することになった（会社もよく行かせてくれたと思う）。国体用馬のお守りの為だったが、それでも1日中乗っているわけでなし、暇で仕方がないので、どうせならとしばらくの間札幌からエトワールを連れてきてもらった。

5月中旬に本城君にレントゲンを撮って診てもらったところ、まだ完治していないらしいとわかったので札幌ではたいした運動はしていなかった。浦河の厩舎周辺の環境は彼にとってはなつかしいであろう。のどかな牧場地帯だが、運動内容はきびしかったからそうのんびりもしていられなかったのじゃないかな。ごく短期間ではあったが、結果的に浦河での生活は彼にかなりな影響を与えたように思う。腹いっぱい食べさせた代わり、正午前の1時間ほどびっしり運動したから北大入厩依頼チンタラしてて腹が出てきていたのが、巻きあがってまるで現役の競走馬のような体形になった。筋肉もりもりになって再び札幌に戻ったエトワールを見て、部員のみんながその変貌ぶりに目を丸くしたというのも無理はないが、外見以上に精神面での変化が大きかったと思っている。

入厩当初はちょっと油断すると牡馬特有の癖ですぐ前肢でたたくなどちょっかいを出すし、浦河に

来てからも蹄洗場につないでおくと寂しがって叱っても叱っても前かきをくり返したりして、甘ったれている状態だった。札幌では専ら調馬索とちょっとしたフラットワーク程度の軽い運動が主で障害はクロスバーぐらいが、せいぜいだったから、高さこそものの数ではなかったにせよ垂直、オクサー、箱障害と次々とトライさせられてびっくりしたようだ。障害練習を始めて間もなく、いきなり80cmくらいの垂直で止まった。飛び方が心許なく自信を持っていないことはわかっていたが、更に低くしても止まるのでここを先途と厳しく懲戒した。彼にしてみればしばらくぶりの障害飛越でしかも慣れない馬場ということからすると理不尽な仕打ちかもしれないが、じゅうぶん飛べるものを飛べないのだから許さなかった。これが2〜3度続き、もうこれ以上懲戒するとたぶんプッツンきてひっかかって走りまくるだろうなというちょっと手前でやめた。かなり同様したようだがとても効いた。以後、彼はまじめになった。彼にとっての転機だったと思う。

馬を誉める、あるいは叱る、そのタイミングや程度は千差万別で一概に言えるものでなく、同じ馬でも時と場合によっては逆効果になったりもする。エトワールに対するあの時の懲戒は、というより懲戒に至るプロセスは本当に必要だったのかどうかは何とも言えない。別のアプローチがあったに違いないし、しかもそれがどういう結果をもたらすかも知れずその後の展開も変わったでであろうから。ただ、騎乗者の命令に従うことの重みをあの時期のエトワールに知らしめる点に関しては、少なくとも悪い結果はもたらさなかったというなんとも回りくどい消極的な言い方をしておく。結果によってプロセスを正当化するつもりは毛頭ない。

いいコンビを組む為には馬を、その意志や行動を正当に、しかも時機を失せず的確に表意化してやることが不可欠であろう。しょせん人間に都合のいい基準にならざるをえないが馬術の性格上仕方あるまい。人馬が同じ喜びを分かち合えればそれに越したことはないが、せめて義務を果たし終えて馬がほっとしてくれるような存在になることで報いてやるくらいにはなりたい。冷静で客観的な評価とは別に、どんな馬であれ出あい任されたからには彼、あるいは彼女の持てる能力を引き出し花開かせてやるのが調教者の勤めだと自負している。

ところで浦河から戻ってのことだが、素直にはなったものの障害練習をやっていていまひとつしっくりこない。バスキュールに伸びやかさが感じられないという重いが日に日に強くなった。馬の成長段階以上の要求を課しているのかもしれないと考えた。バスキュールがフラットにならないように気を使ってたとえば障害の手前に横木を置いて単一障害を練習するなどというのをひとまずやめ、コンビネーションに切り換えた。踏切をよく近くバスキュールを高く、という要求よりもリズムを重視した結果は効を奏したようだ。今ではリズミカルかつ力強い飛越を要求してもよい段階に入りつつあると思っている。

こうして障害飛越のことを書いていてふと気づいたのだが、学生によく「長屋さんは馬場をやらないのですか」と聞かれることがある。馬場の試合に出ないのかということらしいのだが、その度にうんざりさせられる。“障害馬術を自分のステージにしようとしている俺がなんで馬場を踏まにゃならんのだ”と。学生だから仕方ないなとも思い、苦笑してすますことにしているが、その根底にあるものを考えると、“じゃあ馬場馬術の選手にどうして障害競技に出ないのかという質問をするか？”などという言葉は飲みこまざるをえない。どうしても北海道には馬場馬術に対する根強いコンプレックス、馬

場は乗馬の基本という観念から抜けきれないものを感じる。馬を調教する、あるいはコントロールするのに必要な最低限の条件、たとえばバランス、ハミ受け、推進といった技術を磨くことと競技としての馬場馬術とをごっちゃにしているように思えてならない。馬場は全ての基本だ、というのでなく、馬場も障害も総合もどれをやるにしても最小限必要な基本の技術には共通するものがあるんだよという方がまだましだと思うのだが。多くの人が自らのステージを総合馬術に置いているからそうなってしまうのかもしれないが、せっかく自分の手で調教した馬でその成果を問おうというのならやっぱり全国を視野に入れるべきだろうし、そうなってくるとさしもの馬産地北海道も全国レベルには距離がある。総合のスタンスで馬場も障害もやっちゃえ、というのは勝算があってのこととは思えず暴挙にすぎる。学生さんにゃ許されるかもしれないが一般のレベルはそんなに甘いもにゃおまへんでェ、かな？まあよそ様のことをあれこれ言うのはよそう。“あのやろう、生意気なことを”と思われるのがオチだし、“おまえさん、その程度で障害馬術やってるつもりなのかい”なんて言われたらおしまいだもんね。この件はなかったことに……

話はさらに横道にそれて、ラジオで聞いた生理学者のお話。猫に3秒間隔でブザーを聞かせて脳波をとる実験をした。当然のことながら、ブザーに反応して規則正しい脳波が測定される。ところがそれと同時に猫の目の前でネズミを異動させ始めると、それまできちんとブザーに反応していた脳波がパッタリと消滅してしまう。これは全神経を視覚に集中する為に脳内の聴覚機能を停止してしまうからだという。改めてそう解説されてみるとなるほどこれは面白い。見て見ぬふりどころか、実際には見えているもの聞こえているものを脳内でシャットアウトすることによってまるで見聞でしていないのと同じ状態にすることさえ可能だなんて、ずいぶん便利で都合よくできてるもんだ。ピー（パシオンM）のように極度に聴覚が発達していると、放っておけばレーダーみたいにあらゆる音を拾うかわり乗り手への注意力をそっちのけにして勝手にオタオタバタバタするから困った能力でもある。人の良いエトワールはその点、“へえへえあなたの御心のままにどうぞ”というようなところがあるから乗り手としては多少ルーズでいられる。馬場の中から競技でさえもめったに物見せず、むしろ障害をクリアするということからするともう少し注意力があってもいいくらいだ。ところが野外ではコロッと変わって乾濠などの類はどんなに小さくても“冗談でしょう、とっても私には飛べません”となるからそう甘くはない。まあ普段のほほんとしているのが外へ行って目覚めるといったところだろう。大なり勝なりどの馬にも当てはまることではある。

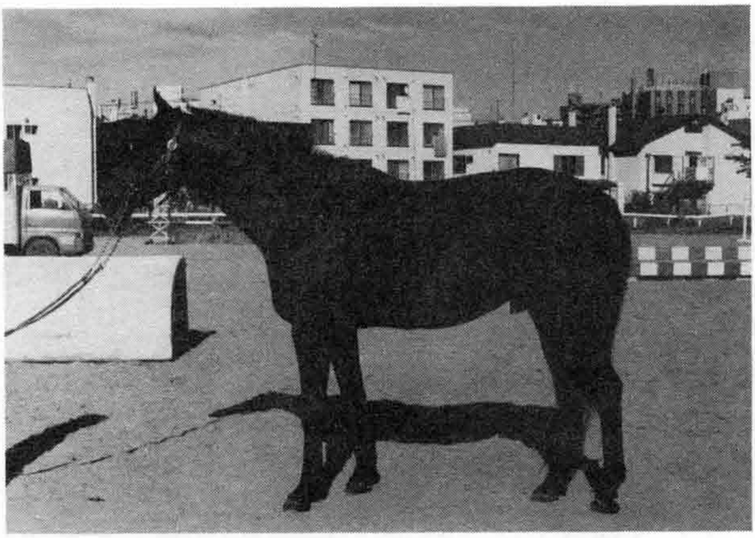
ピーみたいないわゆる競走馬というイメージからするとエトワールはずいぶん鷹揚にみえるが、実はそうでもないところがなんとも彼らしくて面白い。半沢杯でのこと。重文内で準備運動を始めたところ、よその馬が何頭もいる所へ近づいたらなんだかやけにズンズンズンズン前に出ていく。こちらとしては“おいおい、いったいどうしたんだい”という感じ。突っかかったりはねたりするふうもないから変だなと思っていたら何のことはない、ふつう新馬だったらうろたえてドヒャーッと走り回るケースで彼の反応だったわけ。もう1つ、ノーザンホースパークでの試合の折のこと。まず準備馬場へ向かう途中の何の変哲もない所で「ウーッ」とうなったと思ったらスローペースのロデオみたいにピョーンピョーンことはね始めた。神経質な馬にこれをやられたら乗ってる方はたまらないところだが、そこはエトワールのこと、安心してしばらく放っておいたがやめないので、「こらっ、こらっ、ええか

げんにやめっ」と言いつつもほほえましくて思わず笑ってしまった。準備馬場でも特に普段と変わらないふうだったが、狭くなった所で対向してきた馬が怖気づいて急に飛びのいたらエトワールも一瞬飛びはねてしまったのだが、それもその時だけでその後どういうこともない。落ち着いているようでいても彼は彼なりに緊張しているもんだから、まわりの馬につられて思わずうろたえてしまう。しかもそこらへんのタイミングのずれというのか、他の馬とは微妙に違うあたりがその挙動や風貌とも相まっていかにもエトワールらしくとぼけた味があり、彼が可愛いゆえんである。

先ほど述べた客観的な評価という観点からすると、エトワールの実力は今まで北大で乗ってきた馬たち── 北玲、北駿 ── なかんずく北駿に比べると格下との印象はぬぐえない。反撞が少なくて乗り心地がいいだけで歩様もいいとはいえず頭抜けたバネを持っているわけでもない。だが新馬のくせに競技でこれほど苦労しなかった馬は珍しい。バスキュールだってじゅうぶん前身気勢があって適切な踏切をさせた時には、まだまだいけるという確信を持たせるものがある。学生レベルでは個々の馬の能力などぎりぎりまで引き出さない限り猫に小判だ。彼の能力でじゅうぶん。知ってのとおりエトワールは“片キン”である、事故があっては困るし心配する気持ちもわかる。だが片方だけの去勢は殆んど意味をなさないようだし、むざむざと味をしめさせるようなドジを踏まない限り、この調子でいくだろうと思っている。彼は間違いなく役に立ってくれる。学生にはうってつけの馬だろう。その馬のとんでもない潜在能力を引き出すのも何事もなく終ってしまうのもあくまでも乗り手次第だ。プレッシャーをかけているのではない。キャスティングボードは人の手にあり、無限の可能性が意のままにできるチャンスが巡ってきたのだと考えてほしい。

最後に部報委員諸兄姉、今年は何も言い訳できません。私が悪うございました。

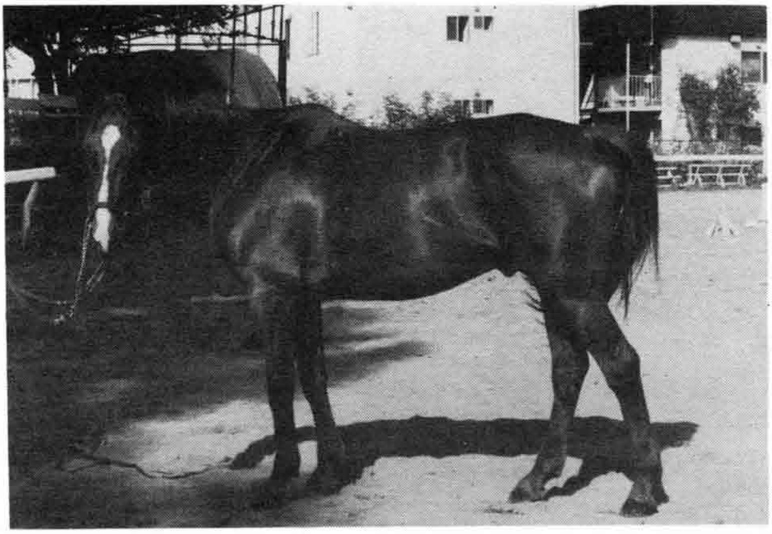
パシオン・M号



騸　サラ　黒鹿毛
昭和56年4月19日生
三石郡三石町産
父　アローエクスプレス
母　スターブルー
競走名　ダイエクスピー

部員の間で、Pと筆者が似ている、という事を言われた事がありました。自分なりにいい分に解釈すると二人（一頭と一人）の間の共通点は①男前でかっこいい②デリケートな心をもっている③才能にみちあふれている④皆に尊敬されている、といったところでしょうか。誰もが納得する意見だと思います。ま、僕も似た者同士だから言える事ですが、やはり天才にはありがちなことで、彼もちょっとおくびょうでわがままです。ですがこれはデリケートでプライドが高いことの裏返しでもある訳で一概に彼を責める訳にもいかないでしょう。OBの加藤ゆうこ姉の調教の下、来年は彼もその勇姿を全国の舞台にあらわしてほしいものです。

明　日　檜　号



騸　アア　栗毛
昭和52年5月23日生
沙流郡平取町産
父　フロルア
母　ギンチョウ
競走名　フロルアタロウ

明日檜号調教報告

福　庄　亮　逸

入ってきた時は、環境の変化と足場の悪い馬場、裸蹄であったこと等であせりやすく駈歩をやると後肢が正しく運ばれず、移行すれば前へつっかかりよく走られた。三角地で速歩運動をしていて、大きな水たまりに入ろうとすると突然、水壕を飛越するようにぶっ飛んだ。明日檜のこいう性格にシーズン中は悩まされたが、魅力も感じた。

フラットワークの問題点は、ハミを嫌ってすぐ巻き込み、ちょこちょことした小さな歩様になり、内方姿勢がとれず、後肢が踏み込んでこないこと。また、推進不足のためか、前におもり、前輪駆動になること。大きくこの2点があげられ、障害飛越運動でも影響した。

毎日の練習は、運動の山を2つ作り、主に最初に障害飛越、インターバルをおいて馬場運動を行った。時々変えたりしたが、障害に入るまでの運動は調馬索を行った。障害にゆっくりしたペースで迎えるようになるために、キャバレティーをまたがせた。幅を変えたり、立てたり積んだりしても一定ペースで通過できるように心がけた。注意した点が巻き込んだりせず、索に張力を感じること。内方姿勢、特に右内方姿勢がとれるようにすること。落ち着いてキャバレティバーが通過できるようになったのは、4月の上旬だった。

障害をやる前にフラットワークはあまりやらず、レベルの低いもの（例えばキャバレティバー）から始め、飛越後は停止、後退を多く入れ、飛越後に暴走しないで騎手に注意を向けることを念頭にお

いた。また、前肢旋回、肩巾、歩度のつめのばしを間に入れ、、脚反応をみながら障害のレベルをあげていった。障害練習は、大阪さんの講習会と栗東トレの竹之内先生、OBの水野さんに教えていただいた内容を基本にして行った。

① 狭めの間歩のコンビネーション。

　ゆっくり飛ばさせ、障害への恐怖を無くすことと、踏み切りの位置がかわらないようにした。同時に人間の随伴の練習。

② 馬場埒から15mくらいのところに、垂直またはオクサーを置き8の字に乗る。

　両手前で飛び、馬場埒を利用して、左右の誘導、回転が等しく行えるようになることと、距離感覚をつけることを注意した。

③ 踏み切りを一定にするため、またその感覚をつかむために、垂直、オクサーの2.7m手前に横木を置き速度と駈歩とで飛越訓練を行った。

　①は回を重ね日を重ねる内におちついて飛べるようになったが、②、③に関しては、僕の技術レベルと内容がちぐはぐで、いまいち課目をこなしただけという感があった。

　フラットワークも竹之内先生と水野さんに教えていただいたことを基本にして行った。

　特に、①移行時に、内方の手綱を引っぱらないこと。特に駈歩からの移行において。

②手綱を短く持ってつめた運動を行い、続いて長く伸ばして、くびを伸展させる。これらの運動の繰り返しを運動の組みたての中にいれる。という2点を注意した。この2つに関して、まず常歩までの運動でこれらが行えたら、次は速歩まで、次は駈歩までと広げていき、半沢杯の直前には駈歩でもひっかからずに減脚できるようになった。

　半沢杯では小障害は満点で、内容もまずまずだったが、馬そのもののもっている能力に助けられた感じだった。一方馬場の3級では、駈歩区間で暴走され、上記課題はまだまだ残った。

　半沢杯後の問題点としては、1m10cm、1m20cmが入る経路走行ができるかどうかであった。1m20cmが1つの壁で、右へ拒避、障害へ突込んでいく。回転で馬があせり、肩からかぶってきて馬体がおきないというのが課題となった。

　右への拒避は、人間の右脚ではさめていない、右のこぶしがあまくなるのが原因である。障害に突進していくのは、人間が踏み切り地点を見つけられないこと、それが遠くからの飛越、また踏み切り直前に1～2歩、小歩が入る飛越につながり、さらに馬に不安感をつのらせることになった。回転では、もっと脚ではさみあげ、おこすことが課題であった。6月18日に行われた部内での記録回、7月22、23日に行われたノーザンホースパークの親善大会でのスピードアンドハンディネスと標準障害ですべて三反失権だった。上に述べたことに加え、誤った馬のペース感覚、準備運動の組み立ての失敗が敗因だった。北日までは、それらの弱点克服に努めた。

　北日の総合の余力（耐久競技は失権のためオープン参加）は最後の連続で三反抗失権だったが、望みのつなげる試合だった。8月20日に行われた市民大会（北星乗馬クラブ）の小障では、北日の余力の内容がいかされ、人間はめちゃくちゃだったが、馬は元気よく飛び満点で帰ってこれた。

　準備運動の組み立ては、北日の時からつかめてきた。輪乗りで3種の移行をまじえ、間に前肢、後肢旋回、停止後退を入れ、落ち着かせると同時に、いっしょうけんめい歩かせた。それから蹄跡を使っ

て伸縮をやってから、低いクロスを速歩から通過した。飛越後は左右10mくらいの巻き乗りを入れた。明日檜はあせってくると肩からなだれ込むのでそれをふせぐため。後は高さ幅をつけていき、回転→飛越→回転→伸縮→回転を基本において組みたてた。準備運動が成功したのは、市民大会が初めてだった。それまでは、ただ高さをあげていけばよいと考えており、その結果、飛びがフラットになったり、飛越後馬体がおきず、逃避する余地を与えていた。

障害走行で安定してくると馬場での駈歩運動も落ち着いてきて、北日での調教審査でもある程度満足できる点数だった。特に明日檜の場合、普段の練習でフラットワークと障害をうまく組みあわせて行けばよいと思う。

馴致に関しては、水に対する恐怖と飛び下りることと壕飛越をにがてとすること、関接的なものとして牛に対する恐怖である。昨年は一応全てにならしたが、むらがずい分あってこれからも日頃の練習、引き馬でならしていく必要がある。

3月の始めより騎乗しましたが、それまでは、北玲に乗って加藤姉に見ていただいていました。精神面と技術面の向上もなく乗っていけないと結論が出ました。これは自分の判断でもありました。目先のことしか考えられなかった自分は、四年目から明日檜をまかせてもらったことが、どういうことなのか、理解できず、自己満足的にしか乗れなかったことが、シーズンを終ってからも気が付きませんでした。チャンスを与えてくれた四年目とそれをささえてくれた同蛩や下級生、何より明日檜にすまなかったと思っています。

心配された肺も獣医の先生の診療で以上なしと出て、今年からは北大の戦力の一つとして活躍してくれると思います。ガンバロウゼペー!

北峰号・富勇号離厩報告

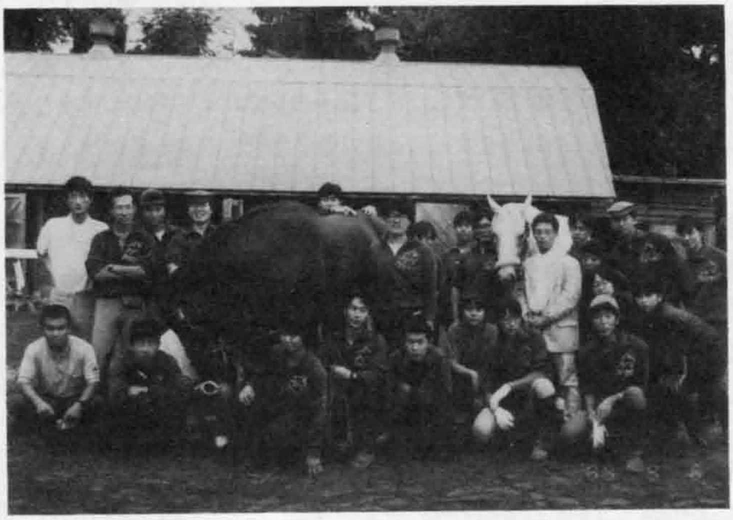
石　川　信　行

北峰号は競走馬名、バトルサクシードといい4歳の秋に北大に入厩しました。12月より僕が騎乗し、さくらというニックネームで現役にもかわいがられていましたが、騎手の未熟による調教の進まなさと馬の立場の不確定さから函館競馬場の馬と交換離厩をすることになりました。しかしその後、オーフルホースコミューンの斎藤さんの好意でしばらく預かってもらい乗せてもらうことになりました。離厩からこの一件に関するまで僕自身の態度のいいかげんさもあり、いろいろと言われましたし、また現役OB双方に多大の迷惑、混乱を招いてしまいました。しかし今から考えてみると現役にもある程度の還元も果たせ、僕自身も大変勉強になる毎日を送ることができ、よかったのではないかとおもいます。斎藤さんには改めて感謝したいです。現在は北見の牧場で元気にやっております。

富勇号は今更紹介には及ばないほど道内では有名な馬ですが、練習馬不足の折、札幌競馬場の乗馬厩の好意で入厩しました。こちらもシーズンオフと同時にOBの斎藤牧人さんの紹介でさきに離厩した北楽院がいる網走の原生牧場というところに離馬屋しました。こちらもQといっしょにのんびりやっているようです。

なにかと問題の2頭を扱っていましたが、僕に馬に乗る楽しさを教えてくれたのもこの2頭です。多くは語りません。2頭に感謝して離厩報告を終りたいと思います。

ノエル号離厩報告



前　田　武　己

昭和58年3月に入厩し、白い馬体で部員のみならず観光客にも人気のあったノエル号ですが、平成元年9月6日に富勇号と共に離厩しました。離厩先は、中標津町俵橋の中川ファームで、繁殖に入りました。既に15才という年令を考えると、彼女を全日学出場馬にするためには、今度が最後のチャンスと考えていたのですが、結局自分のいたらなさ故に叶えてやることができず無念です。

ゴールデンウィークにノエルに会ってきました。彼女のお腹の中には離厩してすぐに受胎したトロッターの仔が入っているということでした。北大在厩時からの腫瘍はやはり大きくなり、確実に彼女の体を蝕んで来ているようでしたが、これからは青草も伸びてくる季節であり、持ち前の消化吸収能力で健康を維持し2頭も3頭でも仔馬を生みその血を残して欲しいと思います。

離厩ということに関して下級生に考えてもらいたいことがあるので書いておきます。

ノエルと富勇ははっきり言って幸せです。斎藤勝雄先輩、斎藤牧人先輩にはいい離厩先を御世話して頂き感謝しています。なぜ、この2頭が幸せな方なのでしょうか。僕が入部してからいままでに離厩した馬は10頭近くいますが、このうち何頭かは人手を転々とし、この様な馬の末路は肉です。我々の代でも明日檜の入厩と引き換えに1頭の馬を、結果としてはそうはなりませんでしたが、獣医学部の解剖用に出しました。

なぜこのようなことをするのかということです。

馬を愛玩動物として飼っているのであれば、このようなことをする必要はないはずです。にもかか

わらずそれをするということは、別の目的をもっているからで、それは試合に勝ち全日学に出場する戦力を得たいからで、そして騎手を育てるために練習に使える馬が欲しいからです。だからこそ何年も在厩し愛着のある馬を離厩させるのです。

もうひとつ。離厩式のことです。ノエルと富勇の場合、調教面の問題もさることながら、年齢的要因もあり、しかも行き場所がしっかりしていたのである程度納得がいきますが、北峰の離厩の時にニコニコ笑っていた者がいたことです。その時点で明日檜の方がクラブにとって有益であると判断し、そのために彼の生命を犠牲にしようというときに厳粛な気持ちにならないのであろうか。この馬の犠牲により、我々はより有用な馬を手にし、目的を遂行せんとしていたはずです。この気持ちをバネに日頃の練習に、クラブの運営に励んで行かなくてはいけないのに、悲しいことです。もう一度、色々なケースはありますが離厩ということについて下級生のみんなは考えてみてください。

昭和60年度、30号の部報の、山田兄の北耀の調教報告は必見です。

ノエル号戦績

S 59	6. 25～26	白馬大	婦人障害	中川		－12	
			小障	森田		満点	3位
			小障	町田		－8	
	7. 23～24	公認	小障	丹野		－3	11位
			婦人壮年	嶋田		－4	10位
			新人新馬	下村		－4	
			中障B	森田		－24	6位
	8. 5～8	北日学	二走	森田	一走目	失権	
					二走目	失権	
			総合	森田	調教	－155	
					耐久	－100	
					余力	－25	
	8. 13～14	道体	中障B	森田		－34	
			小障婦人壮年	小役丸		失権	
			小障一般少年	森田		－14	
	11. 13	酪農戦	小障	丹野		－3	
S 60	5. 13	半沢杯	複合	国枝		－8	
			小障	久光		－3	
S 61	6. 22～23	白馬大	L級	小役丸		－8	9位
			L級	真鍋		失権	
	7. 21～22	公認	二段階障害	小役丸		失権	

			小　　　障	小役丸		失権	
	8. 2～5	北日学	複　　　合	小役丸	調教	－228	
					耐久	失権	
					余力	失権	
	8. 24～25	道　体	L　　　級	服部		失権	
S 62	5. 5	半沢杯	複　　　合	中村	馬場	－155	
					障害	満点	6位
			新人新馬	金田		－ 4	14位
	6. 28	白馬大	L　　　級	山本		－ 8	8位
			M　　　C	中村		－ 12	9位
	7. 19～20	公　認	3　　　級	中村		286	15位
			中　　　障	中村		－ 24	26位
	8. 8～11	北日学	二　　　走	中村	一走目	－ 29	
					二走目	－ 31	14位
		総　合		中村	調教	－212	
					耐久	－ 40	
					余力	－ 40	10位
	9. 6	道内親善	L　　　級	大歳		失権	
	11～9	山下杯	L　　　級	山本		－ 16	6位
S 63	5. 5	半沢杯	複　　　合	高野	馬場	－145	
					障害	－ 14	13位
	6. 27～28	白馬大	S　&　H	金田		失権	
			M　　　C	金田		失権	
	7. 18～19	公　認	3　　　級	金田		293	10位
			中　　　障	金田		失権	
			小　　　障	仲村		失権	
	8. 7～10	北日学	総　　　合	金田	調教	－210	
					耐久	失権	
					余力	失権	
			3　　　級	石川		305	8位
	8. 30～31	道　体	3　　　級	金田		325	4位
			3　　　級	前田		288	15位
			L　　　級	金田		満点	
S 64	5. 5	半沢杯	3　　　級	前田		289	13位
			小　　　障	前田		－ 4	19位
			新人新馬	岩田		満点	3位

	6. 18～19	白馬大	3級	前田		304	11位
			L級	前田		失権	
			L級	石川		失権	
	7. 16～17	公認	3級	前田		341	5位
			小障	前田		失権	
			小障	湯浅		失権	
	8. 5～8	北日学	総合	前田	調教	－209	
					耐久	－142	
					余力	失権	
	8. 20～21	道体	L級	前田		失権	
			L級	福庄		失権	
H 1	5. 4	半沢杯	複合	前田	馬場	－141	
					障害	－ 20	
			新人新馬	横山		－ 17	
	6. 3～4	国体選考会	クロスカントリー	前田		失権	
			S&H	前田		失権	
	7. 22～23	ノーザン HP大会	S&H	前田		141	15位
			中障	前田		失権	
	8. 4～7	北日学	二走	前田		失権	
			総合	前田	調教	－203	
					耐久	失権	
					余力	失権	
	8. 20	市民大会	一般障害	野田		失権	
			婦人壮年障害	中戸川		失権	

北大水産学部活動報告

主　将　根　井　　智

北水馬術部は上本兄が再建された後、村井兄、北川姉、根井と受け継がれて来ましたが、慢性的な部員不足の為、兄姉の努力にもかかわらず伸び悩んでいると言わざるを得ません。昭和63年に僕が函館に移行した時も新入部員の勧誘はしましたが、結局誰も入らずじまいで、12月に北川姉から引き継いだ時は部員一人という状態でした。一年後の昨年10月、田村、橋本、松島の３人が北大本学より移行して来て、一気に４人になりました。本学でやってた部員で４人もいるというのは北水の過去にも例はほとんどなく、北水発展の大チャンスだと認識し、部員一同頑張って活動しています。

ここで北川姉から引き継いでから今年（平成２年）３月までの活動を報告したいと思います。

昭和63年12月　　北川主将から北水馬術部を引き継ぐ

平成元年　５月　　北日本学生馬術選手権４位

本学の仲村主将をはじめとする部員みなさんの好意で選手権と北日学に出場することができました。残念ながら全日の権利は逃しましたが、３年目のシーズンに試合に出られただけでもラッキーでした。試合の雰囲気、マインドコントロールなど色々勉強になりました。

７月　　鞍を購入

毎年恒例の北水体育会物品請求で部員１人の馬術部が、他の部と１ケタ違う30万円を請求。ドヨドヨとした雰囲気の中、ハッタリのみで押して、何と希望通り30万円を獲得。総合鞍一式を購入しました。

８月　　ゴールデンパンサー号入厩

北日学学生馬術大会第３級馬場６位

10月　　田村、橋本、松島、本学より移行

ゴールデンパンサー号を北水の自馬として認めていただく、飛沫（しぶき）号と命名

11月　　東山乗馬クラブ乗馬大会

小障害で松島弟がホープでゴールを切り、賞品ナポレオンを岸本先生より授かる。残りの人間皆失権

平成２年　１月　　北日学生馬術連盟幹事会で北大馬術部より北大水産学部馬術部として独立が許可される。

３月　　現在に至る。

次に北水馬術部の現在の状況を報告します。

○　活動について

活動時間は下記の通りに行っています。

月～土　５：30～　８：00

日・祝　８：00～17：00

毎朝の練習は各個乗りが中心ですが、どうしても一人よがり的な乗り方になりがちなので、部班も

できる限り取入れるようにしています。部班をやると、お互いの馬の動きや姿勢など意識できるので有効だと思います。また4人なのでお互い声を出して注意しあえるようにしています。
土・日は色々な乗馬クラブの作業が中心となります。また、各自週一日（月or土）の休みの日を決めています。

○　飛沫号について

昨年8月、JRA函館競馬場よりOGの国枝さんの御ジ尽力により入厩して来ました。3人が移行して来た10月に菊地先生の寛大な御好意で北水の自馬として認めていただきました。飼料代・蹄鉄代を実費で部員が負担しています。

現在、僕が騎乗しています。まだまだ新馬の域ですが、性格が人に素直なので、蹴る、咬むなど全くありません。しかし、人に対して素直なのは学生の乗る馬として最適であり、その点では乗り易い馬だと思います。障害に対しては、拒止・逃避癖はまだ全くありませんので、このまま伸びて行けるようにしていこうと思っています。

○　独立について

自馬を持ち、部員4人という体制になり、自然と北大の一部という立場では無く独立しようという気運が高まり、ミーティングで“将来的に不安はあるが、やるなら今しかない”と部員一同決意しました。半沢先生をはじめ、斎藤部長、岡田監督、八木さんなどOBの方々の御理解をいただき、仲村主将や上野北日幹事長も積極的に協力して下さった御蔭で認可されました。このまま学馬連もと思ったのですが、全日の理事会で“一大学一団体”という大原則の為却下されてしまいました。

結局、北日本内においてのみ独立という中途半端な形に落ちつきました。しかし、北日選手権の出場枠（男2、女2）を得ることができ、競技会出場の数が少ないだけに大きな意味を持つと思います。

したがって、これからは選手権・北日学の学生の大会は全て北大とは別で北大水産となりました。尚、道自馬など道内の大会は北大として出場します。

以上、行事と現状を述べてきましたが、北水馬術部が活動できるのも、又、これから発展が見込まれるのも、全て東山乗馬クラブの菊地先生、岸本先生の御好意によるもので、それに応える為に日々の努力、そして前進気勢を常に持ち続け、結果として出そうと、部員一同頑張って活動しています。

また、OB諸兄氏の方々、林主将、堀崎主務には何かある度お世話になっており、この場を貸りて厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、来年の部報には、もっと内容の充実した報告ができる様にしたいと思います。

東京OB会だより

平成元年度活動報告

1. 5月13日（土）、春の乗馬会・観桜会が馬事公苑にて行われました。今年は天候にも恵まれ、乗馬会ではOBと家族の方々が馬事公苑よりお借りした2頭の馬を所狭しと操っていました。

　夕刻より始まったジンギスカンパーティーでは、東園会長の差し入れ、御料牧場の最高級ラム肉を囲んで話が弾みます。乗馬会のこと、それぞれの近況について、あるいは現役時代のエピソードなどなど……

　考えてみますと、出席者中最年長の武田さん（昭和8年卒部）から最も若いOB（昭和62年卒部）まで半世紀を越える年齢差があります。馬術部の伝統をちょっぴり感じながら、会は佳境に入って行きました。

　最後は「都ぞ弥生」の大合唱で幕を閉じました。

（出席OB　24名、家族をあわせると約50名）

2. 秋も深まった11月4日（土）、全日学遠征のため上京した現役部員を迎えて、馬事公苑職員食堂にて懇親会を行いました。今年も忙しい中を駆け付けてくれた現役部員の元気な顔にOB一同感激しました。競技会での成績は今一つでしたが、見せてくれた新たな決意に期待したい。来年も待っています。

（出席OB18名、現役部員13名）

3. 平成2年の総会、および新年会を2月11日（日）、品川のホテル高輪クラブにおいて行いました。東園会長から、那須の御料牧場へバスツアーを行ってはどうか、という案が出されました。（観桜会で食べている美味しいラム肉の故郷を訪ねてみたい、という理由からではないと思いますが…）一同賛成、さっそく今春にも実現することになりました。

（出席OB　24名）

事務局より

東京OB会は上記三つの会を中心に活動を行っています。関東近辺にお住いで御都合のつくOBの方はお気軽にご参加下さい。関東地区以外の方々も大歓迎です、ご連絡下さい。東京OB会ではさらに新しい会も企画中です。活動に関するお問い合わせ、あるいはお気付きの点がございましたら、事務局まで御一報ください。

北大馬術部東京OB会　会長　東園基文
幹事長　樋口正明
（記　事務局　名越正泰）

卒部にあたって

仲　村　秀　喜

この年になって、私が卒部して残せるものは、これだけだとやっと思った。ごめんなさい。

離厩候補馬だったドンは、下級生部員の増加のためらしく、残ることになった。

皆が全日学で燃えている9月27日。石狩RCの馬場馬術選手権の3級課目に出場した。何もわからないまま、自分で適当に準備運動らしきものをし、経路図に指示されたポイントのところで曲げる動作をし、試合を終えた。陣川さんに「まあ、はじめはこんなもんだろ」と言われた。他のことは真似ごとができるのに、右の反対駈歩ができなかった。自分の騎座の不安定さ、内方姿勢が維持できないため、手前が変わってしまった。このことに始まって、常に「馬はできるが人はできない」ことばかりであった。老体で無理の効かない名馬に何もわからない、できない人間がどこまで追いつくか、であった。

11月の山下杯では、金田さんの騎乗後に出場した。金田さんが3反失権で、私は1着水だった。1回飛越した障害は、問題がないことを改めて知った。しかし、M級Cレベルでは簡単に失権するのも思い知った。小障害なら誰でも帰ることは可能だが、120cmの壁には厚いものがあった。この10cmの壁が結局最後まで破れないことになってしまったのは無念である。

寒さの到来と共に、馬体は急速に悪化した。右肩をカックンカックンさせて歩くようになり、咳こむようになった。右肩は、昔から悪かったせいもあり、また、1年めが騎乗した際などよくなるので、あまり気にしなかった。特に年明けてからひどくなり、咳止めを飲ませても効果はなかった。馬衣を着せておくとか、敷わらを増やすといったことは、全く効果がなかった。一時期、少しかびている敷わらが使われたのが原因かと思われたが、よくわからなかった。そこで、獣医の小池先生に診断を仰いだところ、慢性気管支炎ということであった。これは、年令から来るもので、暖かくならないと直らないだろうということであった。冷えこみ防止策として、warm－upの常歩の際は馬着を着せたままにしておいたり、馬房を入口より遠いところにしてもらったり、気休めにすぎないのはわかっていたが、できることはやった。また、主将や部員の好意により、昼間暖かい時に乗ることさえ許してもらった。

それでも暖かくなると共に、馬体は徐々によくなっていった。4月初め、新2年目の対東北大戦の障害の試合には出ることができた。高さ90cmまでの、この程度なら、全く問題はなかった。咳こむこともなくなった。半沢杯は、複合、中障、および2年目平井の小障のフルエントリーとなった。複合は1反抗したものの、中障害は満点でかえってきた。2回目の走行の完璧さには改めて脱帽させられた。Jump－offは、北銀、北玲と北大の3頭決戦となり、タイム差で3位となった。結局、この中障害第3位が輝かしい成績を誇るドン・ホッパーの、最後の入賞となったのであった。

1週間の馬休を終え、さらに1週間たち、数日たったある日、障害を久しぶりに飛んだ。整理運動の速歩がびっことなった。今度の破行はなかなか直らなかった。原因がわからず、多くの方々に助言を

求めた。馬はいいんだから、ずっと放牧をしておいて、試合前ちょっと乗って試合に出ろという意見があった。馬休にしたら筋肉が落ちるだけだから、コンスタントに運動しろという意見があった。肩が悪いとか、腱が悪いとか、いろいろな意見があった。その中で、一番的を得ていると思われたのが、装蹄師の太田さんの言葉である。「わしと一緒だ。年をとると、あちこち痛くなっての──、年だからしょうがない。」

獣医学部の小池先生の診断や、JRAの本城獣医の筋肉注射は、科学的で、前向きに考えねばならない私の大きな支えとなった。しかし、太田さんの説得力はそれを越えるものがあったのは否めない。

結局、両肩、両腰が悪いということになり、筋肉注射、マイクロウェーブ、エンプロケーション、インテバン、六十ハップ等、ありとあらゆるものを試みた。決して良くならなかった。しかし、それ以上悪くならなかった。

ところで、どんな馬でも破行し始めた時は、休ませるのが原則であろう。しかし、慢性化した場合、2つの考え方があると思う。

1つは、1週間であるとか、1ヶ月であるとか、終日放牧しておいて、試合前にちょっと乗っておけばよいという意見である。馬は、調教が上がらないにしろ実績があるならば、なかなかもっともな理論である。確かに人間でもたまに仕事をする方が、毎日働きづめより楽に違いない。昔ドンも、遠征から帰ってきて1ヶ月位乗らなかったらしい。これは一つの見識であろう。

もう1つは、悪かろうと、それ以上悪化しない限り、運動を続けるのがよいという考え方である。この主張をとる人は、次のような例を出してくれる。「1ヶ月家から1歩も出ない人間と、毎日トレーニングをしている人間がいる。5kmマラソンをしたら、どうなるだろうか。休んでいたからと、よい成績がでるだろうか」この場合、マラソンというのが極端な例なのであるが、例えばスキーでも、久し振りに行くと、あちこち痛くなるであろう。適度な運動は必要でないだろうかということである。

私は、筋肉注射及び馬休と、常歩運動の繰り返しを1ヶ月半続けた。良くならなかった。しかし悪くもならなかった。ドンホッパーは、北大馬術部の部馬である以上、下級生の練習に使わなければならなかった。チーフは試合に出場しなければならなかった。功労馬といえでも、それができない馬を養っていく余裕などあるはずはなかった。17才という年令からいっても、新馬のように、来年のために無理をしないということもできなかった。北日本学生総合に照準をあわせ、試合の1ヶ月前、本格的運動を開始した。賭け以外の何ものでもなかった。馬体はガタガタだった。

帯広に行った。ドンのやる気が違った。耐久は満点だった。120cmの壁は厚かった。余力で失権した。ドンの北大での競技生活は終わった。

馬事公苑に旅立つ馬運車の一番最後のスペースは、ドンのためのものだった。周囲の感傷をよそに、彼は平然と慣れた足さばきで乗り込んだ。恐らく2度と生まれ育った北海道の地を踏むことがないことなどわからずに。

翌日。24時間以上かけて、真っ暗闇の御殿場RCに着いた。いななき1つせず、堂々とした姿は、やはり首領であった。

小障害飛越競技を満点でゴールしたという便りが届いた。最後のサブだった岡崎が行った時には、彼女が教えた「伸び」を何回もしては、えさをねだったという。写真でみる彼は、まるまると太り、毛

つやもよく、若々しい。彼には、北大のきつい生活は無理になっていたのだろう。富士山のふもとで、幸せになるんだよ。ドン！

前　田　武　己

最後くらい、敬体で理路整然とした美しい文章を書きたいと思い、ワープロ、万年筆と手段を講じましたが、結局少しも進まず、鉛筆で書きなぐることになりました。お読みになる方には申し訳ありませんがご了承下さい。

クラブが終って、まず長時間の睡眠をとってみたいと思い実行した。その結果2日間おきていて丸1日眠るという生活パターンに陥り学校の出席日数は現役の時以下となり、これではヤバイと週6日のバイトを始めたがそれでもなお学校のない日は時間もてあまし、昼間から酒を飲んだり、一体夏休みはどうなることかと思うこのごろ。

ノエル、北玲－－北凛、ドンホッパー、北紫雲、思い出に残る馬は何頭もいるけれども、やっぱり、ノエルと北玲だね。正直言って、クラブ終ってしまって思い出すのは、楽しかったり、喜んだことではなくて、辛かったことでもなくて、何かさびしいけど悔しかったことだけなんだよね。それも、最後の北日学のことだけさ。

やはり、全日学に行きたかった。ノエルに権利を取ってやりたかった。そして北玲にも。時間が経て激しい感情は風化しつつあるけど、その分、じわーと胸が締め付けられる。仲村と北銀のコンビしか行けなかったというのは、北大馬術部のひとりとして、同学年のひとりとして、そして個人としてあまりにも悔しいよね。

ノエルには悪いのだけど、北玲の2回走行を思い出す機会が多い。ノエルの場合、ちょっとこだわらざるを得ないことがあって、素直になり切れないところがあるんだけど、北日のときのコンディション、とくに馬のメンタル面において良くなかったし、ずっと自分が騎乗した結果であったのだから、結果そのものに対しては納得しなければいけない。その点北玲には、一瞬のミスで、3年目にして穴をあけさせてしまった。あの時緊張に耐えられるだけの精神力があればと悔やまれる。せっかく馬は満点で帰ってきたのに、人間が足を引張ってしまった。

もう、馬から下りて1年近くもたち、あと何十日かで今年の北日学があるというのに、未だ昨年のことを思い出す。あきらめが悪いと言ってしまえばそれまでだが、まだまだやってみたいと思う。そして舞台に立ってみたい。ノエルの子がもうじきに生まれる。できるかどうかわからないけど持ってみたいとも思う。母の無念を子が晴らすと言ってね。だけど夢だけは持っていないと、人間だからね。

今年ももう、シーズンに入いっているけど、好調な馬とあんまりという馬にわかれたようだけど、やっぱり我々にとって調教というにはおこがましいけど、調教の目標は、飛ぶ馬をつくることで、つたない技術出ああだこうだすることも大事だけど、もっと馬にメンタルなところを大切にして、障害に対して自身の強い馬をつくることではないだろうか。そうすれば全日学で勝負けになるかどうかは別として出場できる馬はできるはずだと思う。ノエルで失敗したのもこのあたりで、フィジカルな能力

では劣っていても、北日では総合の権利はとれたと思う。僕もそうだったし、今の現役も見たところどうも、“技術”ばかりに頭がいってしまっていないかと思う。昨年の全日学の2回走行で、酪農の近藤が最後のコンビネーションのところで落馬してから馬が障害飛んだよね。極端だけど、そういう馬を作るのが目標なのではないだろうか。今の北大は、調教審査や3級を見ればわかるように、基本的な扶助やハミ受けなんかは間違いなく北日学ではトップレベルだと思うけど、それが障害の結果にならないというのは、やはり先の馬のメンタル部分ではないだろうか。

メンタルといえば、これも人のことは言えないけど人間のメンタル面の強さも今一歩だと思う。昨年の2回走行、僕の北玲にせよ、林の北皇子、堀川の北駿、この3頭、権利に手がとどかなかったのは、人間の精神力によるところが大きいと思う。僕は二走目、一走目とは裏腹にガチガチに緊張していた。あれでは駄目だ。日頃から、緊張に打ち勝つトレーニングをもっととり入れなくては。

話は変わって、この4年間ですごくクラブの雰囲気がかわったと思う。環境が変わったのか、自分が環境に慣れたのはさだかでないけれど、人数が倍近くになって、明るくきれいになった（程度の問題）。馬の繋養頭数は変わらないので、1人あたりのバイトの時間が減って個人の時間が増えたと思う。だけど、これとは逆に、ひとりひとりの馬一頭一頭に対する関心がうすれてきたような気がする。バイトの出勤時間が6時なので、夕当中、車をとりに行くついでにのぞいても、1、2年生ばかりのような気がする。学校が忙しいのは仕方がないし、理解できるのだけど、やはりできるだけチーフや馬体管理責任者本人が少しでも夕当中に見に行った方が良いと思う。馬繋台や曳き馬で見る馬と、馬房の裸電球で見る馬は絶対に違うはず。

時間ができて、精神的余裕ができるというはずであったのに、年毎きつくなっていった。当たり前のことなのだけれども、そうだった。3年目の秋、自分達の代が最上級生になり、クラブを運営する、方針、金銭的問題、対外関係、馬の調教、入離厩、話し合わなければいけないことが山程あるのに、ミーティングができない、ならないことが多かった。わずか4人しかいないのに、時間がもてないことあった。皆同じ1日24時間を持ってどう使おうが、個人の自由なのだが、責任ある立場になったら、やはり、ある程度考えなくてはいけないはずなのだが、それができなかったし、4人あつまっても、話し合いにならないことも度々あった。皆それぞれの考えをもってクラブをやっている訳で、乗る馬の違いとか色々の問題はあっても、最上級生として、同じ土俵で話し合いをしなくてはいけないのにできず、結局、主将である仲村の負担を大きくしてしまった。副将としてのサポートが到らず、申し訳なかったと思う。

馬に感しても、その延長線だったようだ。チーフミーティングを基本的に毎週もっていたが、現状報告に留まり、最上級生として技術的にも精神的にも3年目や2年目を引張って行かなくてはいけないのにそれができず、足の引張り合いという感じで議論にならず、長屋さん、加藤姉、高野兄に助言をして頂いても噛み砕けなかったり、ミーティングなどを通してクラブ全体に反影させることができなかった。その結果が、全日学の権利をとったのが北銀一頭だった。

言いたいことを言ってきて、それにつきあわせてしまって悪いのだけど、最後にもうひとつ。

近年、女子部員が増えてきて、悩んでいる人もいるようだけど、その中で女だからと考えるのは、はっきりいって甘えだね。この前、坂本さんがみえたときに長屋さんが話していたように、今の北大で

は女だからという偏見はないはずだし、僕らが最上級生だった1年間でもそういうことを考えたことはなかった。力はあった方が良いのは当然で、自分でもかなり実感したのだけれど力がないと動かない馬もいる。しかし力がない故に柔らかく乗れる（本人は力んでいても影響が少ない）メリットもあるはずであるし、それに馬を動かす要素は“力”以外のことも多いはずで、それを教えてくれる馬も今の北大にいると思う。僕自身、身体的なコンプレックスはかなり強い方だが、なぜか男が女を意識する以前に女が女を意識しすぎてはいないかと思う。とにかく、Powerで劣ってもそれを補うことはできるはずでそのような努力もすべきだと思う。それとクラブや馬に対しての考え方というか、そういうところで、おそらく何年も前の自分たちの力で自分たちの道を開いてきたOGの方々にくらべて、どこか欠けているものがあるんでないかな。ちょうどヨーロッパの民主主義と日本の違いのように。だから上級生になっても、いまいち頼りなく、妥協でなくもう少し攻撃的な態度が欲しいのでないだろうか。僕が1年目のときの4年目の女の人はもっと怖くて迫力があったように思うけど。受身ではダメだと思う。自分も大きいことは言えないけど。

とにかく、これからの北大は、君達の力によるところが大きいと思う。だからもっと前を向いて頑張って下さい。応援しているんだよ。本当に。

読み返すと全体的にくどく、随分と偉そうなことを書いてしまい心苦しいのですが、これ以上提出を遅らすと奥村妹に迷惑をかけますのでこのまま出します。読みづらい文章で本当に申し訳ありません。

石　川　信　行

しばらく原稿をかかないでいて（部報委員さん、すみません。）前に書いてあった分の原稿を読み返してみるとその時よりもさらに心境が変化しているな、と感じました。やっと落ち着いて馬術部を見れるようになったのかもしれません。終った直後は練習をみにいくのもはばかって見に行っても木の陰からこっそり見るなんてこともしてたのですが最近はOB然としてみている次第です。

そういうわけでほとんど書き直しをすることになりそうな勢いだったのですがそのなかでも変わらないのが自分が馬術部に対して何ができたのだろうか、という疑問です。勉強（最近やっとするようになったのですが）しているときもふとクラブをやっていたときに迷惑をかけた人のことを思いだして、「それに見あう分だけのことをクラブに返すことはできたのだろうか。」と考えるとなんだかむなしくなることがしばしばあります。逆にいえばそれだけクラブから得たものは大きかったということにもなります。

卒部したあともう馬に乗るのはやめようと決意した時期もありました。でも今はもう一度いつか馬に乗ろうと思っています。それが教えてくれた先輩方、助けてくれた下級生、そして僕を乗せてくれた馬たちにできる恩返しなんだと。そして現役が離厩のときにかなしまなくてもいい、離厩馬の余生をのんびりとすごさせられる、そんな馬乗りになりたいです。

西　田　美　春

人より1年少ないことで、変に焦りを感じていたこともあった。今考えると、そんな焦りは無意味であったように思う。ひっかかるところもなく、空回りばかりしていたけれど、エネルギーの無駄使いだったとは思いたくない。この3年間は、次のステップを、より高くするための大事な大事なスプリング・ボードになり得るから……。

現役のみなさんへ

同輩のみんなは今年1年最上級生として、肩の荷がどんどん重くなり、人身共に極限状態まで追いつめられることもあると思います。どうかそんな時は、みんなで協力し助け合って、最後の1年を精一杯頑張って下さい。みんなより一足先に卒部し、最後の1年をみんなと一緒に過ごせないのは、とても残念だけど、今後、私にできる限りのことを部のために、何らかのかたちで協力させて頂きたいと思っています。(但し看護婦の世話にはならぬよう、健康には十分気をつけてね。)

下級生のみんなは、2年目は3年目、1年目は2年目となり、それぞれ部にとっての自分の存在や、技術を含めて馬に関することなどで悩んだり、落ち込んだり、或は退部という2文字がちらつくこともあると思いますが、OB、先輩、同輩など、周りには、アドバイスをくれたり、支えになってくれる沢山の人たちがいることを知って下さい。そして何より、自分がどれ程、馬を愛しているかということを、今一度、考えてみて下さい。

馬はとっても素直でかわいい動物です。人に対して意志を張ったふりをしていても、心の底が読めてしまうから尚更いとおしく感じてしまう。愛情をかけた分、それ相応の、いやそれ以上の愛情を、必ず返してくれます。

馬は私にとっての活性剤でした。最近流行りのスタミナドリンクなんて比ではない。24時間とは言わないまでも20時間は戦うことができたのだから。

それはともかく、4月から新入部員が入り、特に新2年目は、今までと同じで良いというわけにもいかなくなるでしょう。また新3年目は、新歓合宿、日高合宿など、上級生としての腕の振るいどころとなると思いますが、“やってみせ、言って効かせて、させてみて、ほめてやらねば人は動かじ”とはよくいったもので、ましてや馬術部という特殊な集団の中では、馬も触るのが初めてという人間が多いはず、(かくいう私がそうだった) 上級生として、また新たに問題を抱え、大変だと思いますが、責任は、やる気につながるものです。部員全員、そして馬たちの目がキラキラしていて、いつまでも活気のある馬術部であることを願います。

最後に、私がこうやって、3年間の馬術部生活を終え、烏滸がましくも〈卒部にあたって〉などという題でこのように書かせて頂けたのも、OB、OG、先輩、同輩、後輩、そして馬たちのおかげであると存じ、この場を借りて、心から御礼を申し上げます。「本当にどうもありがとうございました。」

湯　浅　夏　美

馬場からすっかり遠ざかってしまっている今日この頃。
私が四年間馬術部を続けてこれたのも先輩や同輩のおかげです。
本当にどうもありがとうございました。

自己紹介・他己紹介

◎4年目

石　川　信　行

今年は朝日のチーフとして、また新たに私達の前に現れた石川兄。大学合格班を取り仕切る姿は、なかなかりりしいものがあります。話をすると独自の理論でクラブのあり方を語ってくれる石川兄。それでもやっぱり私達の兄について行きたくなるのです。

札幌郊外のナイトシアターは新装したころから閉店した様子。ちょっと寂しいと思うのは、私だけではないはずです。

仲　村　秀　喜

兄はとても口説き上手
うまくはめられた部員は、数知れず
この素晴らしいテクニック（？）だれにもまねできない

前　田　武　己

一つのことを聞くと、10教えてくれる兄であります。
あの旺盛な知識欲の右に出るものは滅多にいないでしょう。
愛するノエルは離厩してしまったけれど、新しくノエルの子が競馬界にデビューする日が楽しみですよね。

湯　浅　真　美

四年目の紅一点。普段は優しく素敵なお姉様ですが、甘えてでたらめなことをすると……

◎3年目

伊　藤　顕　治（後援会、農学部農業工業科農業機械学専攻）

健康な体とそれに宿る健康な精神、それが基礎となるべきものだろう。何をやるにしても……。

今自分に欠けているのではないかとおもうのがそれ。多少のリスクを犯しても残りの時間を十二分につかってみせる。

自分の表現法をあまり知らない。したがって、その言い方はかなり厳しいものになる、かなりあたりさわりのないものになるか、あるいはなにも言わなくなってしまう。真意が伝わらないのは結構つらいもんだ。人間嫌いになりそうだ。

☆　　　☆　　　☆

無器用だけど、ひたむきにクラブを愛する兄は学校が忙しくなったはずの今日も部室にいます。今年は羆で輝いてください。

小　林　佐　代（会計、農学部農学科）

神様。最後まではったりとわがままを通させてください。

☆　　　☆　　　☆

問：あなたは小林さんに対してどのようなイメージを持っていますか？

答：おおらか（7人）元気（6人）

わがまま（5人）かわいい（3人）

強い（3人）ちょこまか（2人）

おてんば（1人）笑える（1人）

西　田　美　春（会計補佐、医短看護学科）

医短（異端？）の看護学科にいながらにしての馬術部は常人ではなかなかできない技をよく3年間やりとげたね。3月4日の国家試験はどうだったのかな？4月25日には、きっとすてきな看護婦さんになれることでしょう。

酒飲んだときのあのパワーとタケタと大声をあげて笑う明るさを大切に、これからも忙しいけど頑張れよな。そうそうチアフル2世の誕生はいつなのかネェー。きっとつくってくれると楽しみに待ってるからな。

根　井　　　智（水産馬術部主将、水産学部漁業学科）

夢を目標に目標を現実に……やるぞ！！

☆　　　☆　　　☆

ここらで一つ連想ゲームでもしてみよう！

1. 型は卵型
2. 皮は褐色で、肉は黄緑色。この黄緑はある人に言わせれば、どくどくしい色だそうです。
3. 黒井つぶつぶがたくさんあって、ある人に言わせれば、気持ち悪いそうです。
4. 果物です。味は少しすっぱいかもしれませんが。

もう分かったでしょう。そうです、答えはキウイフルーツです。

で、どうしてこれが根井兄の他己紹介にでてくるのかって。それは兄に聞いてください。それもキウイを目の前において。

中戸川　周　子（副将、札教大）

不確かなものである自分を正直に見る、と言う勇気をだすことを学んだ今、まわりのものすべてが面白くできているように感じる。

☆　　　☆　　　☆

ドジでおっちょこちょいだが、彼女の頑張りとパワーと下級生思いは我が部の活力源だ。

札教大で大変だと思う。残り半年完全燃焼やー。

林　　　憲　吾（主将、教養部理Ⅲ系）

北大合格直後、「人生スタートが肝心。」

現在、「俺は大器晩成型の人間だから。」

私を変えたものはなに？教えて！

なかぬなら　理由を述べよ　ホトトギス

☆　　　☆　　　☆

兄は謎で包まれている。

兄曰く、「無口でshyだから女の人と話せなかった。」

うーん。この真実はいずれ明らかになるだろう。

福　庄　亮　逸（副将、教育学部教育学科）

好きな本の中に、「一兎追うものは一兎も得ず、二兎追うものは二兎を得る。」というのがあった。クラブと学校。クラブでの最上級の立場と大学4年生の立場。上級生が勝つ馬に乗って勝つこと、下級生を育てること。クラブ運営における二つの考え方。根性乗りとリラックス乗り。OBの頼り切りになりたくないというのと、頼らざるを得ないこと。

今迄どっちかしかできないと思ってた。片一方がいいわけであっては断じていけない。くそっ、もっとでかくなりたい。ケツの青さなんか百も承知だ

☆　☆　☆

兄はあの恵迪寮の重任です。クラブのコンパでの兄のパワーをなつかしく思う私は、兄はもしかしたら恵迪で飲んで歌っているのかと思い、思わず恵迪まで聞きに行こうかなという衝動にかられます。一生懸命北皇子に乗っている兄の姿を見ると私も元気がわいてきます。
期待してるよ！福庄！

堀　崎　敬　史（主務、農学部林産学科）

いろいろなことがあった。苦しいこと、つらいこと、楽しいこと、嬉しいこと……。今思えば、あれもしなきゃこれもしなきゃと思うことが沢山ある。

しかし、ここまで来てジタバタしてはいられない。やるっきゃない！

☆　☆　☆

とにかくPowerのある人間である。見かけもそうだが、実際もそうである。忙しい主務の仕事をこなしながらも、夜は行きつけの飲み屋で遊び、遠くの彼女にもまめに電話し、学校での卒論の手伝いをこなしている。とにかくよく動きまわる。最後のとし、そのPowerを全開して、北駿とともに北大馬術部を勝利へと引っ張って欲しい。

真　鍋　いづみ（馬匹、薬学部）

残されたのはあと1年。お前と一緒に歩いていくしかない蛇ない。私を信じなさい。私もお前を精一杯信じるから。力一杯愛していくから。

☆　☆　☆

姉は大変落ち着いた人である。朝の練習後の連絡のとき、いつでもちょっと下を向いてしゃべる姉の支線は大変色っぽい。一年生のTが、酔いもしないのに酔ったふりをしてコンパで「こころから好

きだよ、真鍋さん！」と歌ってしまうのもわかる気がする。真鍋さん、一度でいいからみんなの前で、「どおならえ」と叫んでみてください。

◎2年目

佐　藤　美　幸（馬具備品、教養部理Ⅲ系）

「運が悪い。」「付いてない。」と思って過ごした1年だった。…でも、運やツキと言うものは、自分で呼び寄せるものだと気づくのが、少し、遅かった。

☆　☆　☆

今僕は大きな問題を抱え込んでいるんだ。そのために不眠症になってしまいそうならない。えっ？何かって。う〜ん。でもさあ、これ言っちゃうと君も寝れなくなるよ。それでもいいの？ああそう。じゃあ言うよ。いいかい。「さとみ姉だから馬具備品なのか、馬具備品だからさとみ姉なのか。」っていう問題。どう？すごく難しいだろ。あっあれ？どうしたの、どこ行くの？えっ、ばからしくって付き合ってられない？うーん、そうかな……。

さとみ姉は真に馬具備品の鏡であると思う。様々なところに気を配り、こまめに何でも自分から進んで仕事をこなしてしまう。いつものほほーんとしている僕がいざ仕事をしようと思ったときにはすでに終わっていることが多い。あの小さな体のどこにこれだけのパワーがあるのかなあと思いながら、いつもいつも僕は反省している。これからもつらいことあるでしょうが。頑張ってくださいね。

佐　藤　留美子（会計補佐、医短看護学科）

変なところで意地を張るくせに、ここぞというときに妥協してしまう。

もっと頭を柔らかくしていろんあことをみるようにしたら世界も広がるんだろうけど、現実には思い込むと一つのことしか見えなくなる。

単細胞で脳天気なのに、そうやって弱さをかくそうとしているだけのことです。

この弱さから逃げずに、認めていくことができたら本当に強くなれるかもしれない。

真の意味で、強い人間になりたいと思う今日このごろです。

☆　☆　☆

姉はたくさんの愛称をもっている。“さとる”、“ゴンタ”、“ゴン”…。

イヤなことがあっても、姉の大きな目がくるくるしている笑顔と“ガハハ”の大笑いでどこかにふっとんでしまったことが度々。いつも姉に失礼なこと言ってたけど“愛するがゆえに…”です。

学校でますます忙しくんると思うけど、姉はムードメーカーとして力仕事（？）に馬術部には重要な存在です。あと1年と言わず、もっともっと私達といっしょにいてください。

清　水　礼　子（衛生、獣医学部）
C'est la vie. C'est la vie.
It's just the way it goes.
後悔なんて、しちゃいられない!!

☆　☆　☆

清水姉は都会が似合う女性です。僕にはただ高いという印象しかないディスコが姉は大好きで、なおかつ似合います。出身もそれを裏付けています。が、都会に近いとはいえない北大馬術部の日々の活動の中でも姉はその輝きを失いません。馬に接するのも大変似合っているといえましょう。そう、あの汚い厩舎に対しても違和感はないはず…と思うそばで「夕当の人は部室のそうじ！」とほうきをつきだす、厳しい、きれい好きな姉でもあるのです。

高　村　理　香（会計補佐、歯進）

高村理香。20才。3人姉妹の末っ子。と言っても双子なので、2.5番目ってとこでしょうか。最初、2人揃って入部したけど、もう一人はとっととやめてしまいました。でも内部事情はだいぶ通じるので結構相談相手になってくれて助かってます。下級生に混乱を来しつつありますが。

☆　☆　☆

不思議だ。スプリングもいないのにどこかで「ブヒッ。」「ブヒッ。」と鳴き声がするてんと思ったら実は高村. S. 理香の「寒いっ！」という叫び声であった。リカティーはマジメ（この部では「どろどろした」という）話が大好きで、どうやらだれにでも「今の馬術部はどうあるべきか。」みたいな質問を浴びせかけてくるようだ。こんな時、われわれはどうしたらよいのだろうか。こんな時は、何の脈絡もなく「ブヒッ！」と人声叫んでみよう。すると単純なリカティーは、初め、こちら側の不真面目な態度に冷たい視線を投げ掛けるが、5分もしないうちに完全に話題をがそれてしまうだろう。じつに単純でかわいいリカティーなのです。もうそろそろ真剣に語り合おうか。わかってるって、リカティー。

田　村　亮　一（作業、水産学部増殖学科）

最近あまりにも頭を使わないので、とうとう脳ミソが腐ってきたようだ。回転が悪いだけでなく、感覚、運動神経もおかされてきたようである。

頭にバクダンでも仕掛けて、一丁荒治療とでも行きますか。

☆　　☆　　☆

自ら「俺は硬派だ」とはずかしげもなくいいのけてしまう非常に珍しい人間であり、その存在は、特別天然記念物いや人間国宝にしてもいいのではないだろうか。あの東山の環境にもめげることなく、いつまでもその心意気を忘れないでください。

外　山　敬　子（薬品、農学部畜産学科）

札幌へ来て2年近くたつというのに、いまだに方言が抜けないでいる私は別に札幌になじんでいないと言うわけではないのです。おしゃべりは好きだけど話すのは苦手。言いたいことは山程あるけど言葉にするのはとても難しい。国語を１からやり直そうか……。

☆　　☆　　☆

…さて、私はテレビのあるCMに出ています。何でしょう？

ヒント：やかんをもっておどっています。

三三七拍子をしています。

ボートもこいでいます。

答え：カップヌードル

しかし、彼女はクラブのみんなから慕われている人気者でもあります。

野　田　英　文（副務、農学部農芸化学科）

過去の日々に思いを駆せよう
まだ幼かったあの懐かしい日々に
時とたわむれることを夢見ては
その日その日を楽しんでいたあの頃を

なぜ　僕らは遊び続けることができないのか
なぜ　幼いままでいられないのか

なぜ　太陽に届くことができないのか？
なぜ　歳月を吹き飛ばすことができないのか？

☆　☆　☆

1. 有名な人　2. 尊敬できる人　3. ちょっとばかりアレな人。そんないろんな側面を持つ彼は今日も朝から××××××。(6文字削除、編集部注)

橋　本　　新（飲料、水産学部）

なつの　あさは　みんな　しろい
くさも　みちも　まだ　ねむそう
いそげ　いそげ
まにあったかな？

僕のうしろに　道はない
僕のまえにも　道はない
でも　僕には　足がある
はやく　手が出てこないかなあ　そしてら鎌をもって　丘を越えて　草を刈りに行こう

☆　☆　☆

“かえる”と呼ばれ親しまれていた刈れはとうとう函館へいってしまいました。いなくなって、彼の存在の大きさを知りました。いなくなってしばらく、コンパの時の女どもは“新ちゃん”の話でもちきりだったことをはたして本人は知っているのでしょうか？

しんちゃん、逆境にめげず、hungry精神と持ち前の明るさと優しさで北大水産学部馬術部の黄金時代を築き上げてください。がんばれ!!

平　山　潤　子（記録、農学部農学科）

私の好きな詩

喜びよ、お前は何處から来る、
深い、深い處からくるね、お前は、
たしかにお前は、自然の子だね、

さもなければ人類の子だ
お前は。
個人から生まれるにしてはお前は深すぎる。

☆　☆　☆

「ちょもちゃん」はとても純粋でかわいい子です。ちょっとボケてる（？）のは愛嬌です。

きゃしゃな体で、根性とパワーを詰めて、毎日頑張っています。

料理も上手で「お腹すいたー」と甘えると、お母さんになってくれますが、早く食べないとあの底なしの胃で全部食べられてしまいそうです。これはウソです。「最近胃が小さくなった」と自分では言ってます。でなければ、この他己紹介が悲しいものになってしまい、私は真面目に書かなければならなくなるところでした。

そうならなくて良かった。

ちょもちゃん、笑いごとじゃないよ。二度あることは三度ある、からもう一回あるんじゃないかい？

堀　川　環　樹（作業、薬学部）

東京からきた堀川環樹です
よろしくお願いします。

☆　☆　☆

いつもむっつりしているように見受けられるが、そこがいいのかなかなかの人気者であり、人望も厚いようである。元馬術部のマドンナも獲得するという社会党顔負けの動きも見せたが、作業隊長としての地道な活動の評価は高いものがある。ただ上級生になってしまったらコンパでの豹変をもう見られないかもしれないのは残念ですが…。

松　島　健　滋（車両管理、水産学部漁業学科）

永い　永い時の流れ
無数の離合と集散
我はいつからか光と闇を往復する
スペクトル

合理と不合理のくり返し　またくり返し
然るのち　我は今闇の中

驚き　悲しみ　喜び　苦しみ
記憶は遠のき一切は無

いや無ではなく
そう
闇はあらゆる合理の坩堝

嗚呼　そして
ひとときの安息の後
我はまた不合理な光の中へ　吐き出されるのだ

不合理な　光の　中へ…

ひとつの憐哀れな　個体として

ちょっとカッコ良すぎたりして… ああ恥ずかし!!

☆　☆　☆

松島兄を評する時、「彼は酒豪」と言われるが、まさにその通りだと思った。このイメージは、他の部員すべてが抱えているといっても過言ではないであろう。が、皆さんは、兄と一夜をともに過ごしてみませんか…。

横　山　　勉（飼料、農学部林産学科）

中学、高校ではサッカーをやって団体競技の素晴らしさを知った。6年間、万年補欠であったにもかかわらず、また、自分よりも上手な下級生がどんどん試合にでるのを悔しく思いながらも、一日も練習は休まなかった。勝てば皆で喜び、負ければ皆で悲しんで皆で反省した。

そして、一昨年の全日学で、学生馬術も団体競技なんだと思った。今、僕は馬術部においてとても恵まれた状況にある。もちろん、運の良さもあるが、人より努力して得たものだと思っている。だからといって、努力しても運の悪い人や、頑張りたくても頑張れない人の協力なしでは勝てないと思う。そんな人の気持ちも少しは分かるから、僕に期待して応援してくれる人がいるんだから、と思うと、やる気も倍増する。勝って皆で喜ぶのを夢見て頑張りたい。

☆　☆　☆

兄はいつも部室にいます。
兄はいつももの静かです。

でもコンパの次の日はちょっと違うのです。

なんだか、とってもおしゃべりになるのです。

外乗に行ったとき、「これくらいの酔い方がちょうどいいんだよ。これから毎日飲むか」などと言っておられましたが実行されているのでしょうか？(してる訳ないか…)

これからも、もっともっと、いろんな面を見せてくれること期待しています。

◎1年目

飯　田　雅　代（衛生、レシート、教養部理Ⅱ系）

ゴールデンウィークまでは確か正常な大学生生活を送っていた。

5月9日、ちょっと馬術部を見学しようという軽い気持ちで厩舎をくぐったのが、すべての始まりだった。突然、円陣をくんで囲まれたか思うと、みんな立て続けに自己紹介をしていき、「じゃーとりあえず明日から練習に来て見たら？」と言われ、私は言い返すすべもなくうなずいてしまった。

あれから何度、こんな生活を送ってていいのだろうか？と悩んだことだろうか…

みんなにも迷惑をかけながら、これまで何とか続けてきた。

結論なんてでてこないのが分かっていても後悔だけはしたくないから、

やっぱりこれからも精一杯、悩みながら、手探りで進んでいこうと思う。

☆　☆　☆

コンパでの姉のつぶれてしまった姿はとてもおもしろんだ。だから、上級生になっても大好きなアツカンを思う存分飲んでね！

池　田　直　弥（副務、教養部文Ⅰ系）

芦毛の馬、その白い馬体は人の目をひきつけるものである。今まで私が見てきた馬の中でも芦毛馬は強い印象を時に私に与えてきた。そんな中でもタマモクロスは決して忘れることのできない馬である。タマモクロスは4歳の夏までは下級条件戦で勝てない弱い馬だった。そう、夏までは。しかし秋になって条件戦を勝ち上がるやその後は連戦連勝を続け、5歳時の春、秋の天皇賞を連覇するに至った。そしてその12月、有馬記念僅差の2着を最後にターフを去った。と、ここで私がこんな紹介したのはただ私が競馬好きだからではありません。タマモクロスのように鋭い末脚を身に付けて、自分の力が求められたときに十二分に自分の力を発揮したい、という私の希望の象徴であり、なおかつ決意の現れでもあるのです、と理解してほしいなあ。

☆　　　　　　　　☆　　　　　　　　☆

“働けど、働けど　我がクラブ　楽にならざらん　じっと手をみる”

ほんとおによく働く、しっかり者。彼の誠実さは天賦の才といっても過言ではありません。クラブの雑務etc.をいってにひきうけ、働く池田弟の姿をみるといつも感涙一潮であります。それでいて、移行点の高さには目をみはるほど…。独語の予習はたとえ部室のこたつであろうとかかしません。えらい!! 池田！これから先どんなにつらいことがあっても、がんばるんだぞ!!

祝　前　伸　光（部報　教養部理Ⅲ系）

何もゆうことはありません。

☆　　　　　　　　☆　　　　　　　　☆

彼は切れ者である。そのバツグンの切れのよさは、この部においてそして部報という役職において遺憾なく発揮されている。しかしその切れ味が一際目立つのが、言わずと知れたお酒の席。ギターの弦を軽く弾いただけなのに、“プッツン”と言う心地良い音が耳元で聞こえ、奏でる和音は不協和音ってなそんな感じ。彼の数知れぬ伝説はこのとき生まれる。だがその伝説を彼が知るのは、翌日あるいは数日後と決まっている。なぜなら彼にとって“プッツン”という音は時間をとめ理性を押さえるものでありそれ以降は真に“記憶がない”のである。だから部員のだれかが、それからの出来事を顔を赤らめながら教えてあげるのである。

奥　村　浩　美（部報、教養部水産系）

何かと怪我の多い一年でした。それも人には言えないような理由の怪我が。

☆　　　　　　　　☆　　　　　　　　☆

彼女は水産系の女の子ということで大変貴重な存在である。普段はおっとりしているように見えるが実はしっかりした根性を持ち合わせている。パワフルな頼もしい人物だと思う。

函館いいとこはよおいで！こっちは札幌に比べてちょっぴり田舎だけど住めば都だ。

それに紅一点ということで、なにかとお得なこと盛り沢山。だと…思う…。

いくら札幌の部員の引き止めようと、サッサと来るように。

徳　本　龍　志（馬具備品、教養部水産系）

夢ですか。えーとね、へへへ。

——涙——大好きなそして大嫌いな言葉。喜びも悲しみも勝利も敗北もしゃべらずとも涙で語る。冬の夜明かりのきえた部屋の窓から外を見て、粉雪の囁きに慰められて涙を零す。夏、信頼と友情で得た勝利に友が手をとり涙が溢れる。それだから、

〈色褪せた、茶色いダンボールの箱の中で〉

荒涼とした砂漠を拾ってしまった三毛猫がミャーと鳴く。天から言われるままにミャーと鳴き空を見詰める。砂漠の癖に風が吹き、とりわけ冷たい風が吹く。願いを託する流れ星、それすら見つけ得ぬほどい、切ない美しさを持つ三日月がまぶしくて目を閉じた。閉じたまぶたに映る景色は、暗く重たく沈黙の苦しさ。寂しくって目をあけて、最後の三日月消え去って鳴いた友を失って鳴いた。始めて自分がこのよに悲しく生を持った生き物と知った。

皆さん、お願いだから水産水産と期待しないでください。頑張れよ、と励まさないでください。嬉しくってたまらなくって涙がでちゃいそうだから。

夢ですか、へへへ。自分が鳴きたくなったとき、馬が代わりに涙を流してくれる。そんなもんだよ。

☆　☆　☆

彼はドンパでは一番の好青年。そして大胆不敵。彼が平気な顔でとてつもないことをやらかすので、“よく知ってたね”と聞くと“…知らんかった”なかなか真顔でjokeもお得意らしい。また彼は、「失礼な奴」という別名もある。これから先もますます名言を増やして“水産”で披露してね。

永　田　修（飼料、コンパ、教養部理Ⅲ系）

高校を卒業するときに、高一の時の担任してもらった先生が、卒業アルバムの寄せ書きに、僕のことを次のように述べていた。「お前にはかねがね大物になる資質があると思っていた。10年後が楽しみな生徒の一人である」と。あれからも10年のうちの半分がすぎてしまったが、今のところ鳴かず、とばずの一大学生である。あの先生には人を見る目がなかったのかは他また私は大器晩成型の人間なのだろうか？自分で言うのもなんだが「本当に将来が楽しみな人物だなあ、おまえは…」

☆　☆　☆

修よ、あなたは入部当初から、その秀でた年令を武器に、一年目のひとつの中心となってきました。
酒の席とあの手の話でのパワー全開ぶりは見事なものです。
ただ、そのパワーの一部でいいから練習の方に向けてごらんなさい。
酒とあの手と練習と、この三つがそろってこそ、真の馬術部員と言えるのです。
あなたの存在がよいほうへ、出るか悪いほうへ出るか、それはあなた次第です。
汝　目覚めなさい。（神より）

横　幕　宏　幸（文化、教養部理Ⅲ系）

僕は　いつも　お母さんの御飯が食べれます。

僕は　たまに　お父さんとプロ野球ニュースを見ます。

僕は　時々　弟と兄弟喧嘩をします。

僕には　妹がいます。でも最近会っていません。

☆　☆　☆

持って生まれた酒のみと、文化の仕事で何故か池田氏をこき使ってしまう不思議な才能には目を見張るものがある表向きはどこまでふざけた奴なんだろうと思うけど、実は人思いの真面目な奴だということが最近分かった。

いつもの年より人数が少ない一年生。誰か中心になっていくのかな？と思うけど、こいつがひょっとしたら台風の目になるような気がする今日此頃だ。

北大馬術部馬匹名簿

No.	馬名 旧名	性	毛色 種	生年月日 産地	父 母	入厩日 離厩日
001	 ミストクシマ	牝	鹿 中半			S 29. 11. 1
002	 エリザベス	牝	栗			S 29. 11. 1
003	北潭 シラカワ	牝	鹿 中花			S 29. 11. 1 S 35
004	 ミスアプテール	牝	栗 アノ系			S 29. 11. 1
005	北斗	騸	鹿 中花			S 29. 11. 1 S 36. 11.
006	 ヨシタカ	牝	栗			S 29. 11. 1
007	北春 林城	鹿				S 33. 4 S 36. 11
008	北涼	牝	栗	S 27. 4		S 35. 2 S 42. 1. 19
009	北翔 水堂	牝	鹿 ア	S 30. 4. 20	遠汐 溢新	S 36 S 45. 2. 12
010	北飄	牝	青 サラ系	S 30. 5. 6 静内	キングライト 前山	S 36. 11. 14 S 42. 11. 14
011	北楊	牝	鹿 中半	S 28. 4		 S 42. 1. 19
012	朝清	騸	栗 中花	不詳		 S 42. 1. 19
013	北晨 ミストヨサカエ		栗 軽半	S 35. 4. 20 浦河	タカトシ ニュークラック	S 38. 10. 7 S 47. 9. 13
014	北瓔 ナグサ		鹿 中半	S 30. 4. 28 三石		S 37. 11. 29 S 47. 12. 12
015	北彗 長風	牡	栗 中半			
016	 ジュピター					S 41. 5 S 41. 10. 26
017			鹿 アア			S 41. 8. 27 S 47. 12. 11

018	北　　秀	牝	栗 中　花	S 40. 6. 2 北大馬術部	北　　彗 北　　涼	S 42 S 52. 4
019	北　　凛 ネルソン	騸	栗 サ　ラ	S 39. 3. 20 早　来	クリノハナ タカクイン	S 42. 9. 17 S 47. 10. 15
020	北　　雄 ヤマズミオウ					S 42. 7
021	北　　力 チ　カ　ラ		鹿 サ　ラ	S 39. 3. 24		S 43. 8. 30 S 45. 7
022	北　　武	騸	鹿 ト　ロ	S 40. 4. 17 音　更	ビージェー コテンプル	S 51. 12
023	オキルソン					
024	雪　　嶺					S 45.
025	千　里　馬	牝	鹿 中　半	S 41 日　高	シーザー	S 45. 12. 16 S 49. 4
026	北　　勇	騸	鹿 ト　ロ	S 36		S 51. 9
027	北　　隼 セントオール	牡	鹿 サ　ラ	S 36. 4. 20 伊　達	カルガドール ライジングマンナ	S 44. 10 S 52. 1. 31
028	疾　　風	騸	栗 ア　ア	S 45. 5. 31 門　別	オーバーマイン オスメビハヤ	S 47. 4 S 56. 10. 9
029	カ　ム　イ	騸	栗 サ　ラ	S 44. 6. 17	ラーカスパー インズキー	S 47
030	天　龍　山	騸	黒　鹿 サ　ラ	S 43. 3. 6 浦　河	カヴァービート カンキヒメ	S 47. 8
031	リ　ヒ　ト	牡	栗　刺 サ　ラ	S 36. 6. 13 早　来	カルガドール トキチドリ	S 47
032	スターライト	牝	栗 ア　ア	S 41. 4. 4 門　別	トモスベビー 銘　　乾	S 47. 9. 25 S 59. 12. 17
033	羊　　蹄	牝	鹿 ア　ア	S 44. 3. 4 十　勝	ハマテツリ 久　　亭	S 47. 10. 3
034	北　　燕	騸	鹿 サ　ラ	S 46. 3. 14 鵡　川	マタドア リュウウェー	S 55. 3. 20
035	北　　雛	騸	黒　鹿 軽　半	S 51. 2. 23 北大馬術部	ドンホッパー 羊　　蹄	S 51. 2. 23 S 60.
036	ハイエイム	牝	栗 ハンタ	S 41 オーストラリア		S 53
037	ドンホッパー	騸	黒　鹿 中　半	S 46. 6. 30 早　来	オーシャチ ハゴロモ	S 63. 10. 29

038	ダイパレード	牡	栗 サラ	S 39. 4. 16	ダイハード ミレッタ	S 54
039	北楽院	騸	鹿 サラ	S 47. 4. 6 静内	ミンシオ ジュラルチ デインツ	S 51. 6 S 58. 12. 7
040	北稜 ローヤルタマナー	牡	栗 サラ	S 43. 5. 11	タマナー ミスキリシマ	S 51. 10. 18 S 52
041	北美 メールエクス プレス	牝	栗 サラ	S 44. 4. 10 静内	スパニッシュ エクスプレス ゴールデンメルド	S 51. 8
042	北姫 ヤマニンミヨコ	牝	鹿 サラ	S 49. 3. 27 静内	アステック ヤマニンザザ	S 52. 7. 1 S 62. 5. 29
043	北将 シュバールブラン	騸	芦 サラ	S 49. 2. 14 浦河	フォルティノ マツノミドリ	S 52. 7 S 59. 11. 18
044	北皇子 ハーバーギャラン	騸	栗 サラ	S 51. 5. 12 新冠	アストラル グリーン ハーバーガール	S 54. 6
045	北耀 ホースマン ヒリュウ	騸	鹿 サラ	S 46. 3. 17 浦河	ヘンリーヒギンス タマホマレ	S 54. 12 S 61. 8. 3
046	勇勝					S 58. 11. 2
047	輝魂龍					S 57. 6. 17 S 58. 9. 21
048	スカイナーホース					S 59. 10. 9 S 59. 12. 8
049	烈烈風	騸	栃栗 サラ	S 52. 4. 26 静内	ダンシング キャップ ルーキー	S 56. 7 S 59. 10. 21
050	ゴージャスライフ	牝				S 59. 7. 6 S 59. 10. 10
051	オオカリヒメ	牝	芦 ア	S 44. 4. 2 新冠		S 59. 9. 26
052	オーロラホマレ					S 59. 4 S 59. 6. 21
053	ヤマニンチャンス					S 60. 11. 6
054	北雷 サンテスプリ	騸	芦 サラ	S 57. 5. 20 新冠	シルバーランド スピーケーション	S 60. 6. 1 S 61. 12. 7
055	北冴	騸	栗 サラ	S 53. 4. 12 鵡川	ホウシュウエイト アモーレタフ	S 58 S 61. 8. 22
056	スーパーボーイ アグネススーパー	騸	鹿 サラ	S 57. 4. 1 浦川	アグネスプレス ナロウビン	S 60. 11. 6 S 62. 9. 6
057	北紫雲	騸	鹿 サラ	S 53. 4. 27 静内	オープフリーオン クイーンマリーナ	S 62. 5. 29

058	リンドクラウン					
059	ノエル スパークコルト	牝	芦 サラ	S 50. 4. 22 浦河	フォルティノ シンクイン	H 1. 9. 6
060	北銀 トカチヤマ ブキオー	騸	鹿 サラ	S 55. 4. 28 新得	ヤマブキオー ソーゴータカラ	S 58
061	北玲 クイーンクレメン	牝	鹿 サラ	S 56. 4. 8 えりも	ノーザンアンサー クレメンタイン	S 59. 10. 10
062	北凛 ヤマニン スプリング	牝	芦 サラ	S 57. 4. 8 浦河	ゼダーン ヤマニンペパー	S 60. 11. 23
063	北駿 チャフルガイ	騸	鹿 アア	S 58. 4. 3 三石	トップホース プルコワヒメ	S 61. 7. 22
064	北瑛 ニューギャロップ	騸	芦 サラ	S 55. 4. 18 鵡川	トレンタム ホクエイフブキ	S 61. 8. 13
065	北榆 ポットチャンプ	騸	栗 サラ	S 58. 6. 16 門別	グレートセイカン ミスポット	S 62. 7. 29 H 2. 9. 2
066	北羆 ヤマニン ウィザード	騸	黒鹿 サラ	S 59. 4. 24 新冠	ノーアテンション ヤマニンアツコ	S63. 6. 17
067	北峰 バトルサクシード	騸	鹿 サラ	S 60. 5. 3 十和田	カツラノ ハイセイコ サクラパワー	S 63. 7. 26 H 1. 4
068	グレンエトワール グレンエトワール	牡	鹿 サラ	S 61. 3. 26 静内	サクラシンゲキ ホシローズ	H 1. 2. 16
069	パシオンM ダイエクスピー	騸	黒鹿 サラ	S 56. 4. 19 三石	アローエクス プレス スターブルー	H 1. 3. 2
070	明日檜 フロルアタロウ	騸	栗 アア	S 52. 5. 23 平取	フロルア ギンチョウ	H 1. 3. 6
071	富勇	騸	鹿			H 1. 4 H 1. 9. 6
072	ファストバロン ファストバロン	騸	サラ			H 2. 4. 7
073	ベストエンゼル	騸	サラ			H 2. 7

部報の馬匹紹介を参考に作成した名簿です。不完全なものではありますが、それだけの意味はあると思いあえて掲載いたしました。今後より完全なものを目指すため、訂正、追加などお気づきのことがありましたら、ご一報ください。

北星乗馬クラブ

〒061-22　札幌市南区白川1814番地３
TEL　(011) 596−2407

サッポロ
テイセンボウル

Teisen

札幌市東区北7条東1丁目
☎742-2131

中央競馬・道営競馬　競走馬具一式販売

木村馬具商事

木　村　　武

札幌市白石区北郷３条９丁目４−33　TEL(011)875−2821

ご家族づれから
大宴会まで
郷土料理・お座敷中華

うまいもの屋 誉御殿会館

さっぽろ・北４西４
予約電話 261−7851

●各種コンパ・宴会承ります 数名様から50名様まで
クラシックを聞きながらのめる

居酒屋 塩野屋

北区北18条西4丁目18条ハイツ地下 TEL 726-1759

普通車・自動2輪車の運転免許は
北海道大学に最も近く、生協指定の

教習時間8時～21時
★毎日入校できます★

桑園自動車学校

札幌市中央区北8条西14丁目 TEL 271-7511（代表）

でどうぞ!!

- 北海道公安委員会指定校で技能試験免除
- 補習料金は定額を実施中（格安取得で好評）
- 桑園駅や市営バスの停留所が近くにあり通学に極めて便利
- 当校の無料送迎バスが北区北大方面、西区琴似・西野・山の手・発寒・八軒方面、東区苗穂方面に運行しています。
- 入校申込書は、北大生協店にあります。

産地直結、高級タオルのデパート

㈱ 竹タオル 札幌店

札幌市中央区南大通り西10石山通り西向
電話 241-7406・231-6009

札幌市指定第一種水道工事業者第198号
札幌市排水設備業者登録番号第209号
北海道職員互助会指定工事店

管工事業

日章冷熱株式会社

札幌市東区北19条東2丁目12番地88

電話代表 (742) 7273番

㈲北洋給食センター

給食弁当、仕出し、お寿し、オードブル
多少にかかわらず注文うけたまわります。

東区北22条東1丁目304番地
TEL 722－5665

ボリューム満点 コンパ200人までOK！

やきとり居酒屋 きよた

誕生日当店御利用の方にカラー写真、シャンペン、粗品を差し上げます。

札幌市北区北17条西5丁目北向 電話 747－7000

今、確かな資格をめざして・・・・

●建築士
●土木施工
●衛生管理士
●社労士
●造園施工
●調理師
●行政書士
●管工事施工
●宅建取引

通学 通信

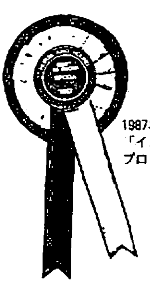
学生割引きあり

●詳細パンフ無料進呈中！

初学者合格指導21年の経験と実績を誇る

HK 国家試験北海道研修センター

札幌校／〒064 札幌市中央区南19条西14丁目2の35 ☎(011)563-6251
旭川校／〒070 旭川市1条11丁目左1号協案ビル1F ☎(0166)25-1911
帯広校／〒080 帯広市公園東町1丁目3の18 ☎(0155)24-5551

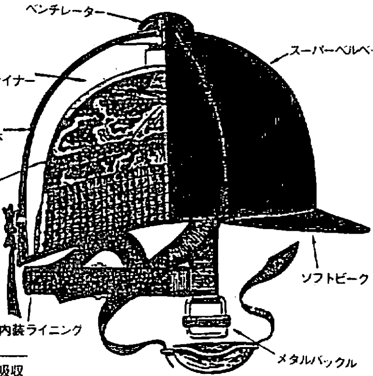


ウエンブレーワールドキャップ

Wembley

THE WORLD APPROVED SAFETY CAP

1987年"Spoga"(西独)乗馬部門
「インターナショナル・ベスト
プロダクト金賞」受賞



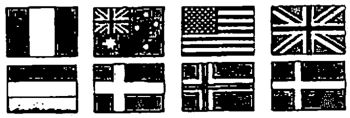
「確かさの証明」

定価 ¥16,000

・日本人の頭型にフィットする様にデザインされております

世界に駆ける…ウエンブレー

WEMBLEY WORLD CAP は高性能ABS 樹脂帽体と優れた 衝撃吸収機能を持つ特殊スポンジライナーを使用しており、フランス、オーストラリア、アメリカ、イギリス、西ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、すべての安全基準テストに合格した、世界唯一のライディングキャップです。



CAVALLO

国内総販売元

カバロ株式会社

□カバロ神戸　神戸市中央区磯上通6丁目1-17　〒651
ウエンブレービル1F　TEL(078)251-6620(代)
□カバロ大阪　大阪市北区梅田1丁目2番2—200号　〒530
大阪駅前第2ビル 2F　TEL(06)344-0070
□カバロ東京　東京都世田谷区上用賀2丁目3-1 106　〒158
パシフィック馬事公苑前　TEL(03)425-8844

7円コピー

Do・Copy

札幌市北区北18条西4丁目　☎ 747—6876
十八条ハイツ1F

ショッピング　リカーショップ

やまわ　わしだ

〒062 札幌市豊平区美園3条4丁目　TEL 821—6428

食料品・雑貨

山本商店

札幌市北区北十九条西七丁目
TEL七四六－六二八五

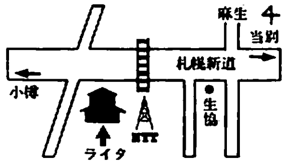
大衆中華

札幌で
２番目においしい店

宝来

札幌市北区北24条西３丁目
TEL 758—5105

馬具 shop
REITER
ライタ



札幌市北区北32条西9丁目
TEL 716－5779

ご予算は…？内容は…？

おまかせ下さい!!

味とまごころでご奉仕

仕出し料理

中一

札幌市北区北18条西４丁目（18条ハイツ地下）
事務所／北区北18条西５丁目

☎716-6751

編　集　後　期

発行予定日からすでに一年以上の月日（年月と言うべきか）がたってしまいました。例年予定どおりには出ない部報ではありますが、こんなに遅れたのははじめてのことでしょう。札幌、東京以外にお住いのOBとはほとんど唯一の接点であり、卒部生にとっては記念すべき卒部のアルバムのようなものであり、現役部員にとってはどんな馬術書よりも役にたつ本である、この部報を、たった一人私が怠慢であったばかりにこんなにも遅くに発行してしまい申し開きようがありません。予算の都合もあって写真もなく、メインの調教報告も欠け、目玉の特集記事もなく、内容の方も例年になく貧弱なものになってしまいました。ここでどれだけ言い訳しても始まりませんが、すべての責任は部報委員たる私にあります。関係者の皆様ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。

最後に恐縮ですが、無能な委員にかわって編集作業のほとんどすべて行ってくれた北大印刷奥平氏に深くお礼申し上げます。

部　報　第３５号

平成３年６月　発行

発行者　北海道大学馬術部

札幌市北区北１７条西７丁目

北大体育会内

TEL（011）716-2111 内線 5597

TEL（011）737-1626（直通）

編集者　部報編集委員

印刷所　北大生協　北大印刷